

平成 25 年 度

# 県 政 世 論 調 査

結 果 報 告 書

〈概要版〉

平成 25 年 11 月

福 島 県



# 目次

## I 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査実施概要	1
3. 調査項目	1
4. 回答者の構成	2

## II 調査結果の解説

1. 復興に関する情報発信について	5
(1) 震災・原発事故や復興について知りたい情報	5
(2) 復興の進んだ程度	6
(3) 復興状況に関する情報の入手先	8
(4) 復興の状況を見たことがある県の広報	9
(5) 県外に発信すべき内容	11
2. 心の健康について	12
(1) 心の健康への関心の有無	12
(2) 精神的な疲労の認識	14
(3) 心の負担になっていること	16
(4) 心の健康についての相談先	18
(5) 利用したことのある相談機関	20
3. 救急医療について	22
(1) 休日・夜間の医療体制の整っている程度	22
(2) 休日・夜間の医療体制の整っていない点	23
(3) 救急医療に期待すること	24
4. 農林水産業について	25
(1) 農林水産物の購入や食生活で実践または実践したいこと	25
(2) 農山漁村に期待すること	26
5. 生物多様性について	27
(1) 「生物多様性」という言葉の認知状況	27
(2) 震災前後での自然環境の変化	29
(3) 生物多様性の保全と復旧・復興の優先度	31
(4) 今後実践したいライフスタイル	32
6. 地域社会の安全・安心（治安）について	34
(1) 現在の治安状況	34
(2) 治安状況が良いと思う理由	36
(3) 治安状況が悪いと思う理由	38

(4) 犯罪の発生状況や防止方法等の情報の提供手段 .....	40
(5) 犯罪に関して知りたい情報 .....	42
(6) 警察に強化してほしい活動 .....	44
(7) 重点的に取り締まってほしい犯罪 .....	46
7. 安全で安心な県づくりについて .....	49
(1) 安全・安心の現状 .....	49
8. 県総合計画について .....	51
(1) 福島県の現状 .....	51

### Ⅲ 調査票様式

### Ⅳ 過去に実施した県政世論調査項目一覧

#### ●本報告書利用にあたっての注意点

1. 本文及び図表中の回答者の割合は百分比（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入してある。  
したがって、四捨五入の結果、個々の比率の合計が100％にならないことがある。  
また、複数回答の質問では、比率の合計は100％を超えることがある。
2. 図表中の「n」は回答者総数（該当者への質問の場合は該当者数）のことで、100％が何人に相当するかを示す、比率算出の基数である。

# I 調査の概要



## 1. 調査の目的

県政の課題等について県民の意識やニーズを調査し、具体的な政策形成等の基礎的な資料とする。

## 2. 調査実施概要

- (1) 調査地域 福島県全域（28市町村を抽出）
- (2) 調査対象 満15歳以上の男女個人
- (3) 標本数 1,300（人）
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出

第1次抽出：「県北」「県中」「県南」「会津」「南会津」「相双」「いわき」の県内7地域をそれぞれ「総人口10万人以上の市」「総人口10万人未満の市」「郡部（町村）」の3グループに分け、各グループを1つの層とした。  
各層の市町村別人口累積表により、等間隔に調査地点（市町村及び町丁・大字）を設定した。

第2次抽出：第1次抽出で得られた調査地点の住民基本台帳から、条件にあてはまる調査対象者個人を系統抽出した。

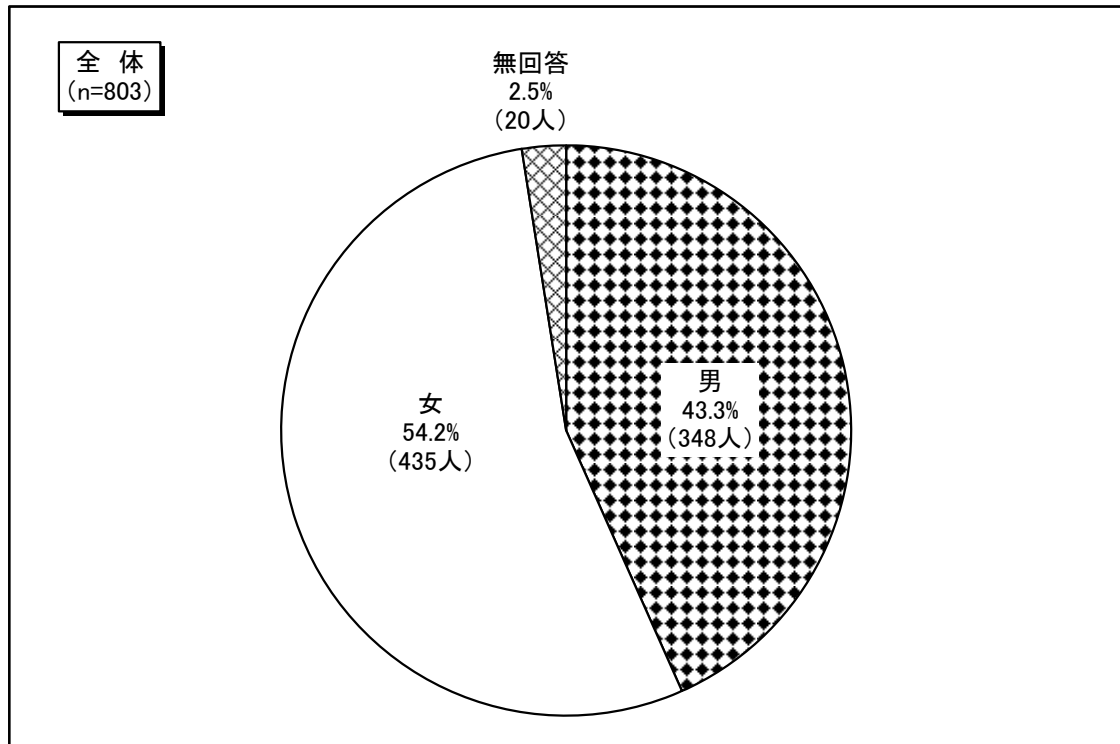
- (5) 調査方法 郵送調査（自記式アンケート）
- (6) 調査期間 平成25年8月21日～9月4日
- (7) 回収結果 有効回収数803（回収率61.8%）

## 3. 調査項目

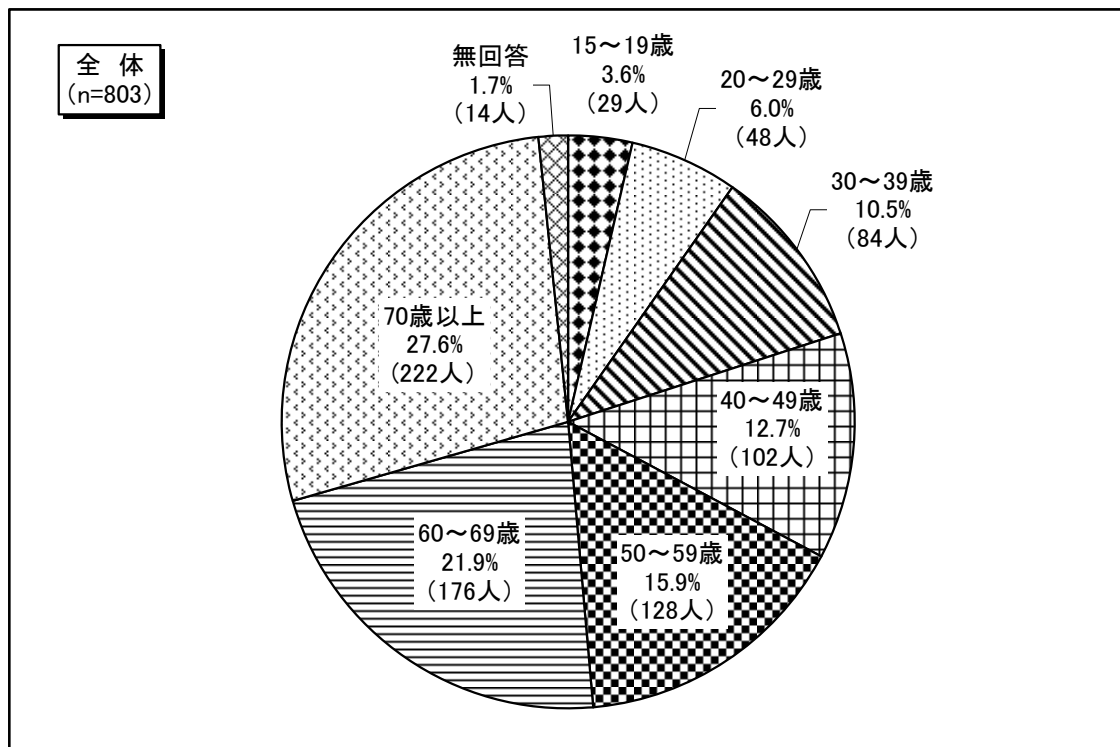
- (1) 『復興に関する情報発信』について
- (2) 『心の健康』について
- (3) 『救急医療』について
- (4) 『農林水産業』について
- (5) 『生物多様性』について
- (6) 『地域社会の安全・安心（治安）』について
- (7) 『安全で安心な県づくり』について
- (8) 『県総合計画』について

#### 4. 回答者の構成

##### (1) 性別

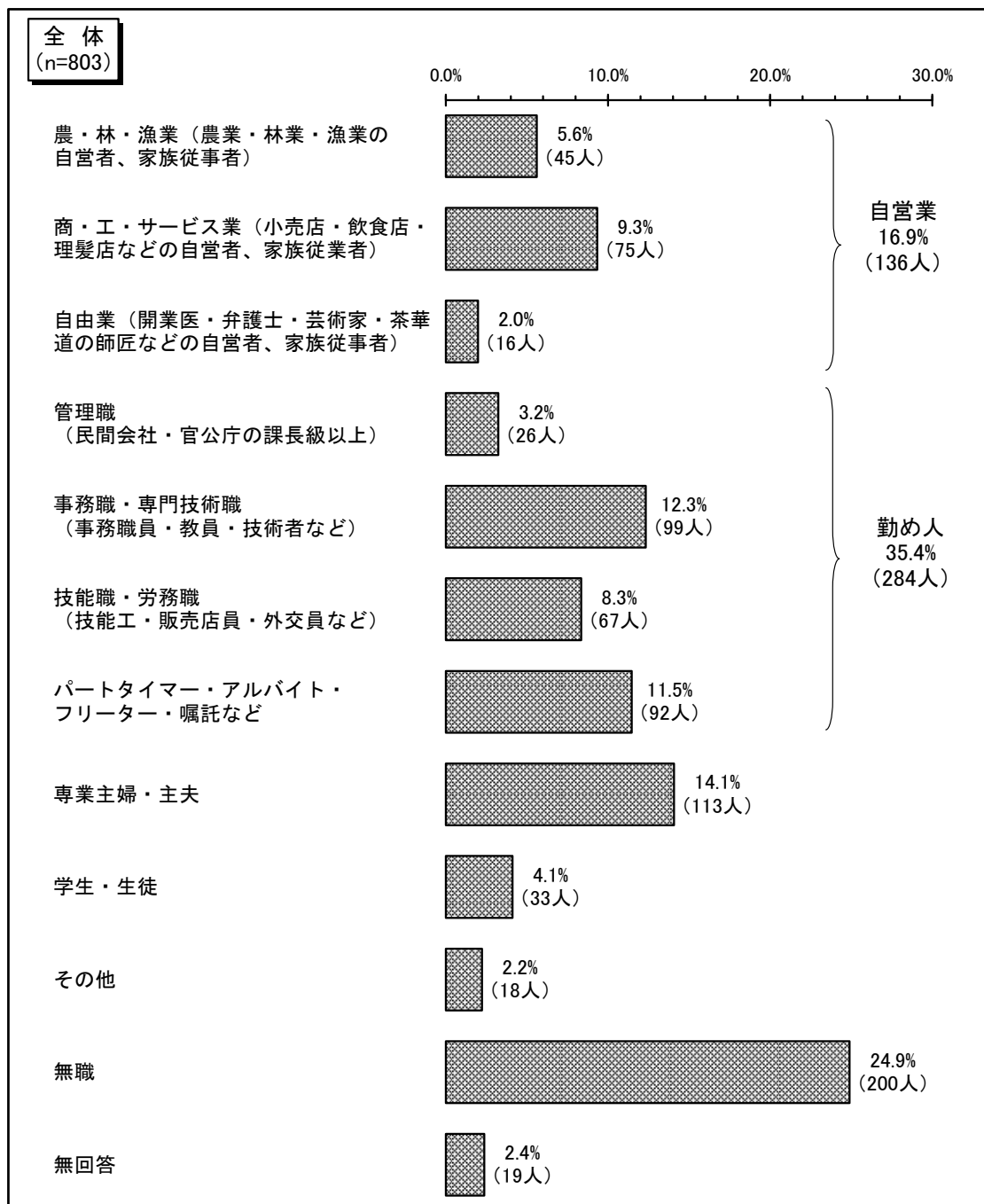


##### (2) 年齢

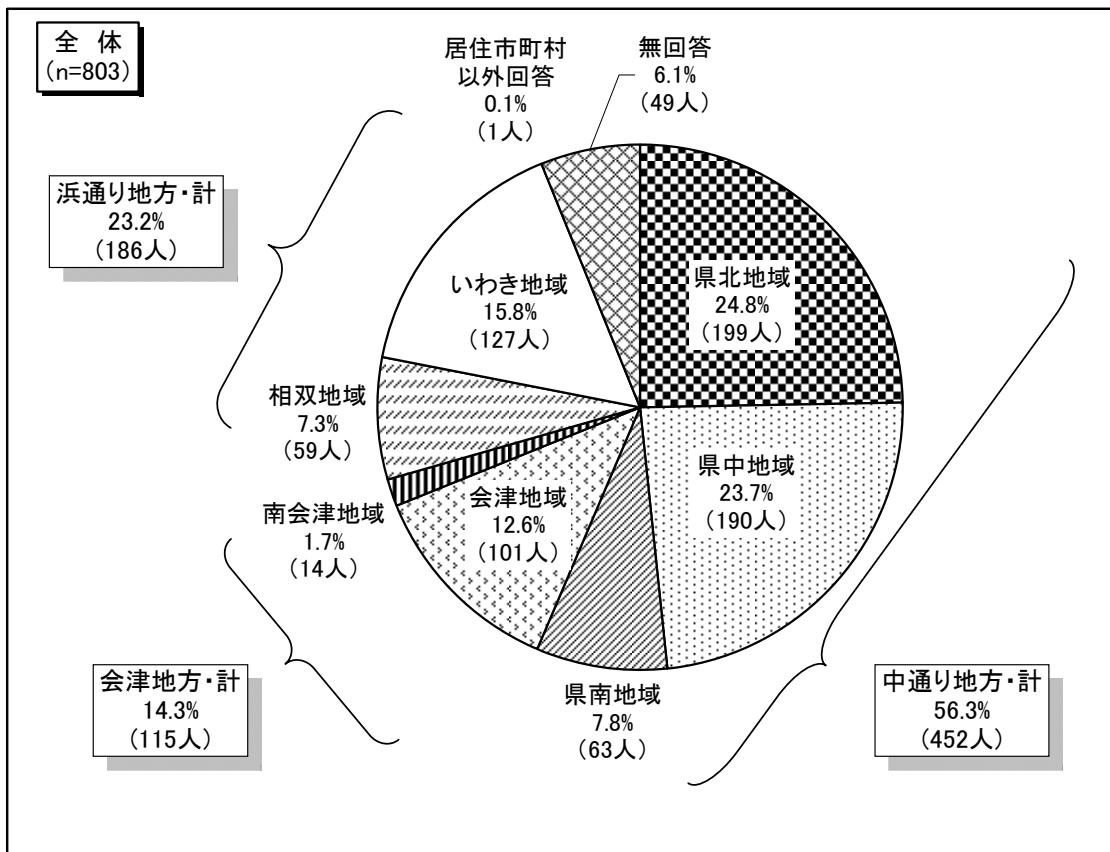




(3) 職業



(4) 居住地域



市町村別回答者数

		市町村名	回答者数 (人)	構成比 (%)
中通り 地方	県北地域	福島市	122	15.2
		二本松市	24	3.0
		伊達市	27	3.4
		本宮市	14	1.7
		桑折町	4	0.5
		川俣町	8	1.0
		郡山市	127	15.8
	県中地域	須賀川市	23	2.9
		田村市	13	1.6
		鏡石町	9	1.1
		古殿町	11	1.4
		小野町	7	0.9
	県南地域	白河市	27	3.4
		泉崎村	12	1.5
棚倉町		10	1.2	
		矢祭町	14	1.7

		市町村名	回答者数 (人)	構成比 (%)
会津 地方	会津地域	会津若松市	49	6.1
		喜多方市	17	2.1
		西会津町	14	1.7
		柳津町	4	0.5
		会津美里町	17	2.1
		A 南会津町	14	1.7
	浜通り地方	いわき市	127	15.8
	居住市町村以外回答	1	0.1	
	居住市町村別無回答	49	6.1	
	全体	803	100.0	

A 南会津地域

B いわき地域

※居住市町村は平成25年8月1日現在の住民基本台帳による

## Ⅱ 調査結果の解説

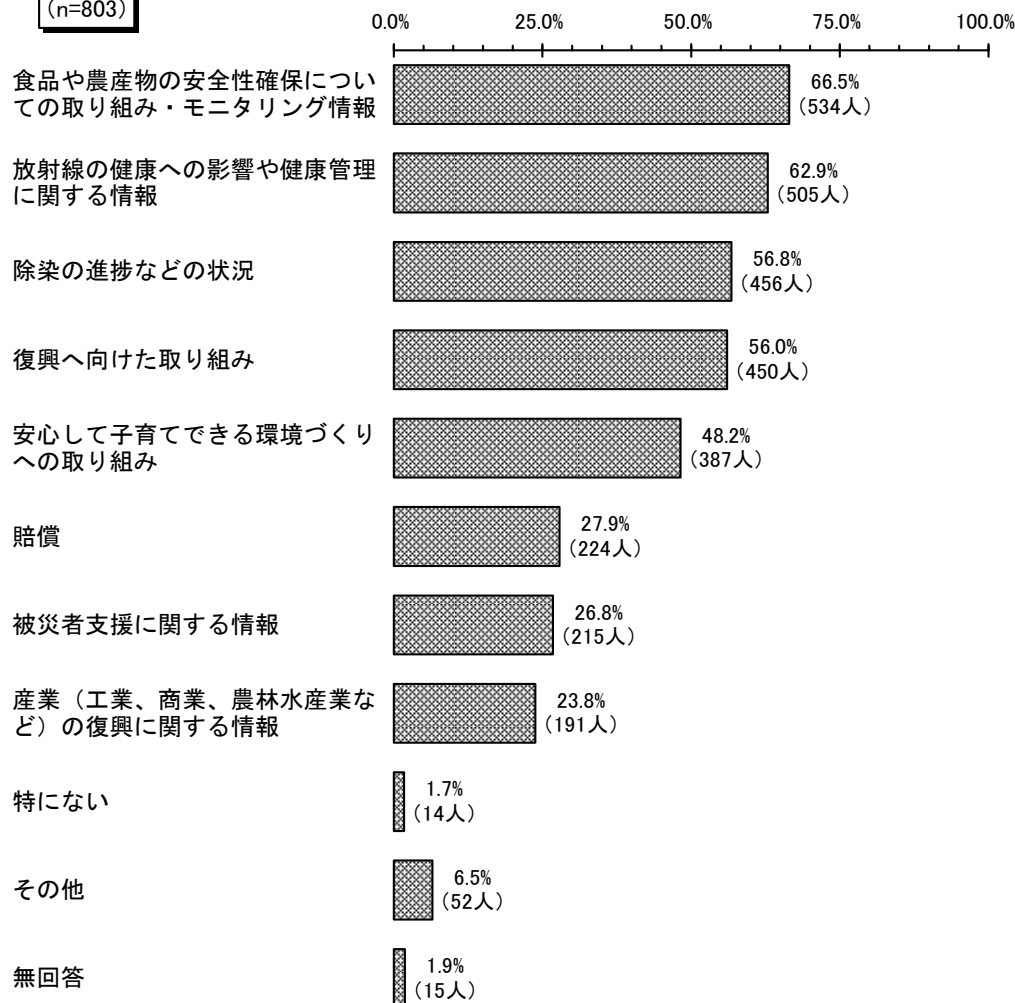


# 1. 復興に関する情報発信について

## (1) 震災・原発事故や復興について知りたい情報

問1 震災・原発事故や復興について、あなたはどのような情報を知りたいですか。  
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

全体  
(n=803)



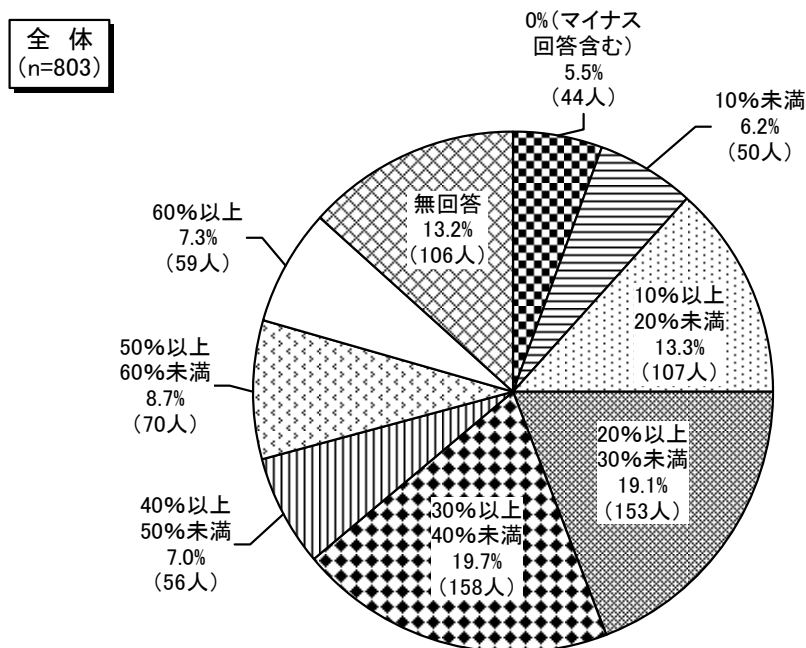
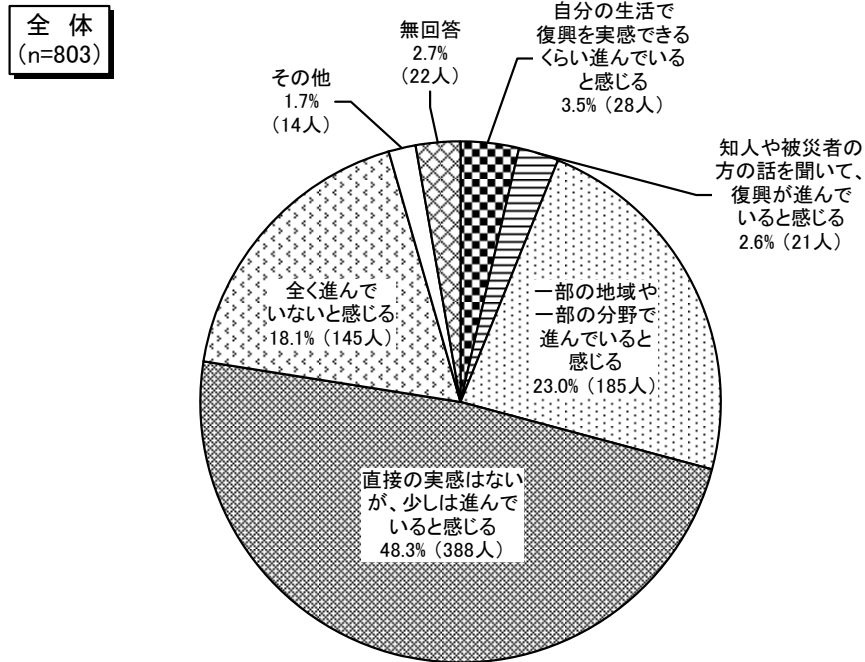
震災・原発事故や復興について知りたい情報は、「食品や農産物の安全性確保についての取り組み・モニタリング情報」(66.5%)が最も多く7割弱となっている。以下、「放射線の健康への影響や健康管理に関する情報」(62.9%)が6割台、「除染の進捗などの状況」(56.8%)と「復興へ向けた取り組み」(56.0%)が5割台、「安心して子育てできる環境づくりへの取り組み」(48.2%)が4割台で続いている。

## (2) 復興の進んだ程度

問2 本県の復興はどの程度進んだと感じていますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。それを選んだ理由についても記入してください。

また、震災前を100として、何パーセントくらい進んだと感じるか、数字で記入してください。



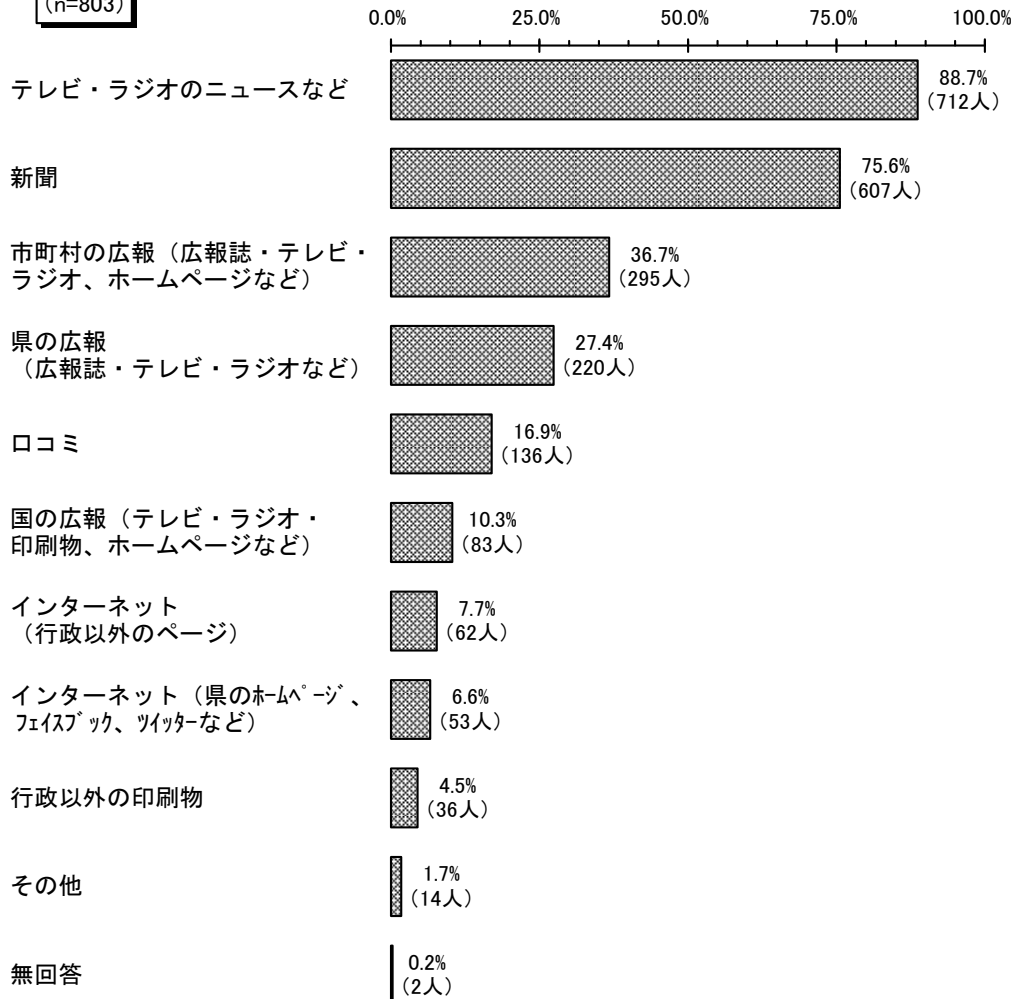
復興が進んでいる程度は、「直接の実感はないが、少しは進んでいると感じる」(48.3%)の人が最も多く、5割弱となっている。以下、「一部の地域や一部の分野で進んでいると感じる」(23.0%)が2割強、「全く進んでいないと感じる」(18.1%)が2割弱で続いている。「自分の生活で復興を実感できるくらい進んでいる」(3.5%)と「知人や被災者の方の話を聞いて、復興が進んでいると感じる」(2.6%)の割合はわずかである。

また、復興の進んでいる程度を割合で表わすと、「30%以上 40%未満」(19.7%)の回答が最も多く、次いで、差がなく「20%以上 30%未満」(19.1%)となっている。6割強の人が「40%未満」と回答しており、回答のあった697人の平均は27.4%となっている。

### (3) 復興状況に関する情報の入手先

問3 本県の復興の状況に関する情報については主に何で入手していますか。  
あてはまるものにもいくつかでも○をつけてください。

全体  
(n=803)



復興の状況に関する情報の入手先は、「テレビ・ラジオのニュースなど」(88.7%)が最も多く、9割弱となっている。以下、「新聞」(75.6%)が7割台、「市町村の広報(広報誌・テレビ・ラジオ、ホームページなど)」(36.7%)が3割台、「県の広報(広報誌・テレビ・ラジオなど)」(27.4%)が2割台、「口コミ」(16.9%)と「国の広報(テレビ・ラジオ・印刷物、ホームページなど)」(10.3%)が1割台となっている。



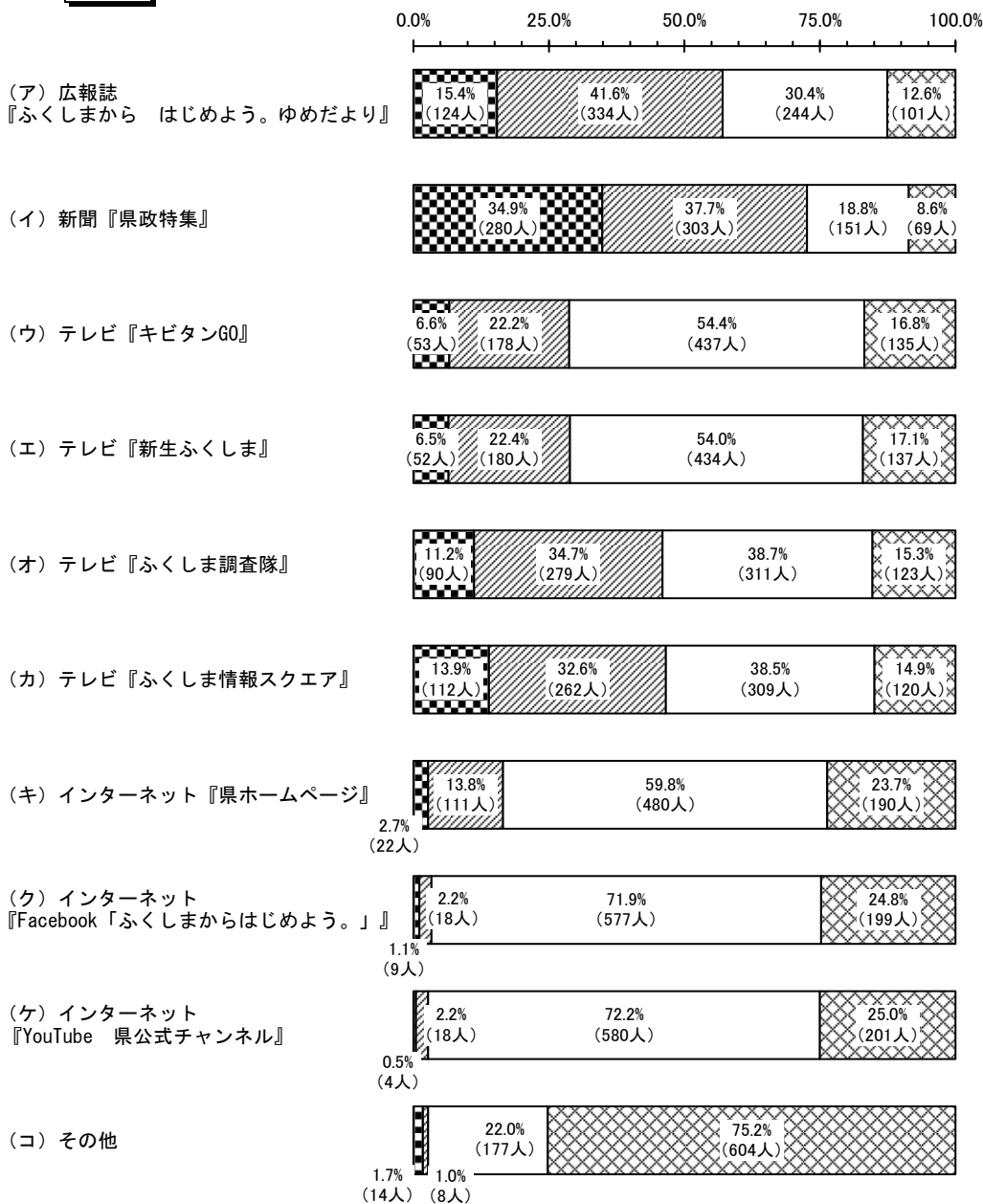
#### (4) 復興の状況を見たことがある県の広報

問4 あなたは、復興の状況を県の広報で見たことがありますか。

(ア)～(コ)についてそれぞれ1～3の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

全体  
(n=803)

□よく見る □見たことがある □見たことがない □無回答



復興の状況を〈新聞『県政特集（福島民報・福島民友）』〉（34.9%）で「よく見る」と回答した人が最も多く、3割強となっている。以下、〈広報誌『ふくしまから はじめよう。ゆめだより』〉（15.4%）、〈テレビ『ふくしま情報スクエア（福島中央テレビ「ゴジてれ chu!」内：毎週火曜日 15:50～16:53）』〉（13.9%）、〈テレビ『ふくしま調査隊（福島テレビ「サタふく」内：毎週土曜日 11:30～12:55）』〉（11.2%）が1割台で続いている。

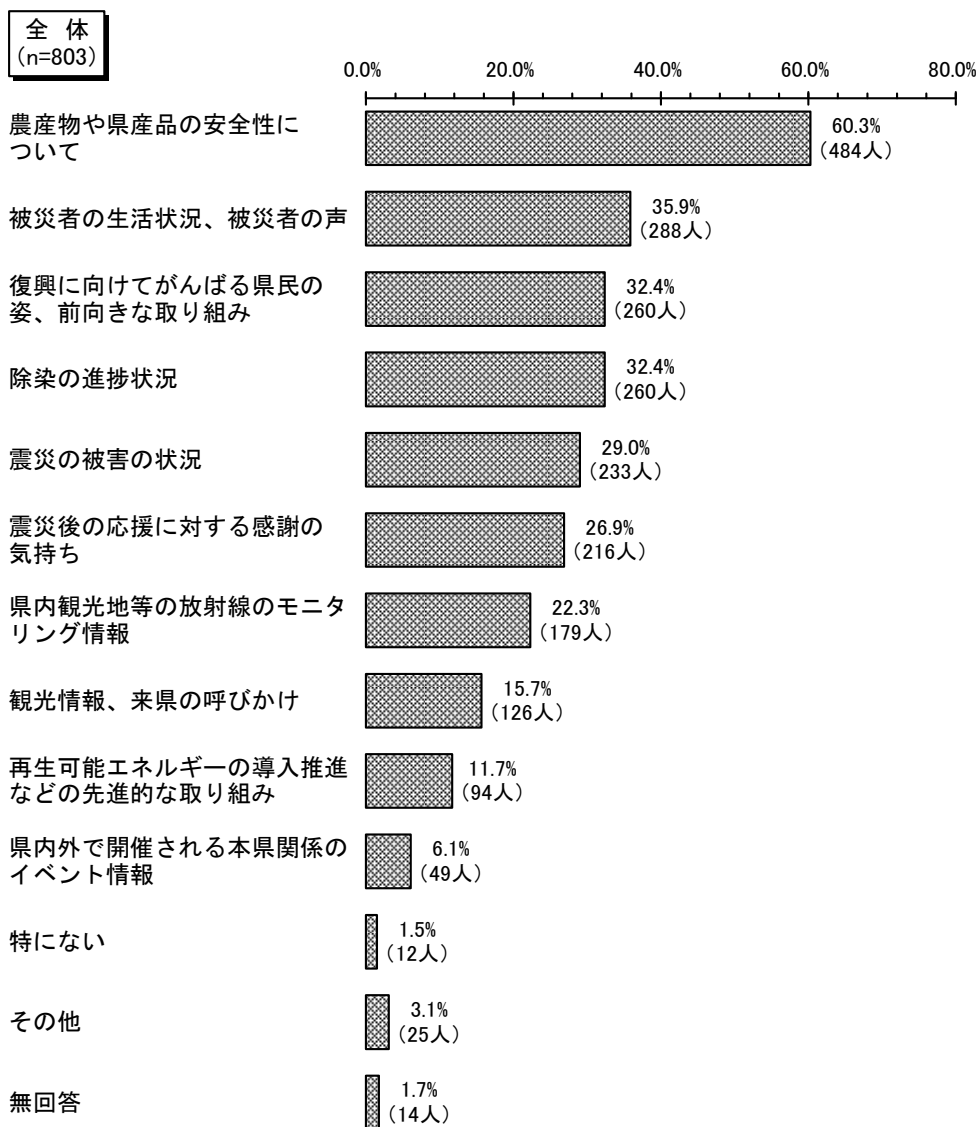
また、「見たことがある」県の広報は、〈広報誌『ふくしまから はじめよう。ゆめだより』〉（41.6%）と回答した人が最も多く、4割強となっている。以下、〈新聞『県政特集（福島民報・福島民友）』〉（37.7%）、〈テレビ『ふくしま調査隊（福島テレビ「サタふく」内：毎週土曜日 11:30～12:55）』〉（34.7%）、〈テレビ『ふくしま情報スクエア（福島中央テレビ「ゴジてれ chu!」内：毎週火曜日 15:50～16:53）』〉（32.6%）が3割台で続いている。

「よく見る」と「見たことがある」を合わせた『見たことがある』計の割合をみると、〈新聞『県政特集（福島民報・福島民友）』〉（72.6%）が最も多く、7割強となっている。以下、〈広報誌『ふくしまから はじめよう。ゆめだより』〉（57.0%）、〈テレビ『ふくしま調査隊（福島テレビ「サタふく」内：毎週土曜日 11:30～12:55）』〉（50.0%）が5割台、〈テレビ『ふくしま情報スクエア（福島中央テレビ「ゴジてれ chu!」内：毎週火曜日 15:50～16:53）』〉（46.6%）が4割台、〈テレビ『新生ふくしま（福島中央テレビ：毎週土曜日 16:55～17:00）』〉（28.9%）、〈テレビ『キビタン GO（福島テレビ：毎週火曜日 21:54～22:00）』〉（28.8%）が2割台となっている。

一方、「見たことがない」の割合は、〈インターネット『YouTube（ユーチューブ） 県公式チャンネル』〉（72.2%）が7割強で最も高くなっている。次いで、あまり差がなく〈インターネット『Facebook（フェイスブック）「ふくしまからはじめよう。」』〉（71.9%）が続いている。以下、〈インターネット『県ホームページ』〉（59.8%）、〈テレビ『キビタン GO（福島テレビ：毎週火曜日 21:54～22:00）』〉（54.4%）、〈テレビ『新生ふくしま（福島中央テレビ：毎週土曜日 16:55～17:00）』〉（54.0%）となっている。

## (5) 県外に発信すべき内容

問5 あなたは、県外の方に、福島県のどのようなことを伝えるべきだと思いますか。  
あてはまるもの3つまで○をつけてください。また、それらを選んだ理由があれば記入してください。

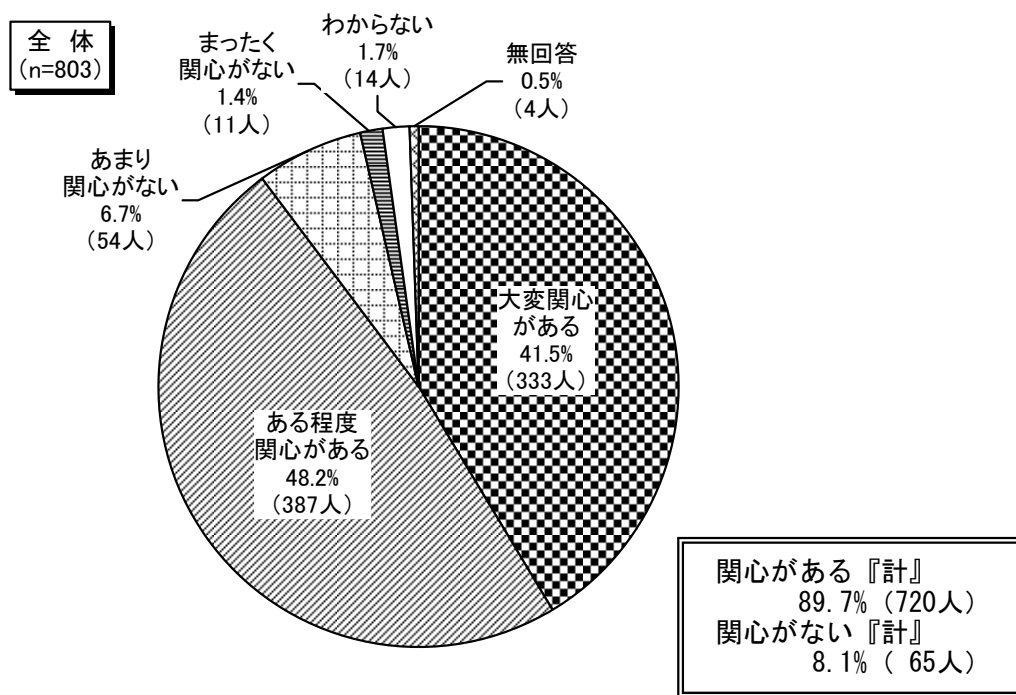


福島県の現状について、県外に伝えたいことは、「農産物や県産品の安全性について」(60.3%)が最も多く約6割となっている。以下、「被災者の生活状況、被災者の声」(35.9%)、「復興に向けてがんばる県民の姿、前向きな取り組み」(32.4%)、「除染の進捗状況」(32.4%)が3割台、「震災の被害の状況」(29.0%)、「震災後の応援に対する感謝の気持ち」(26.9%)、「県内観光地等の放射線のモニタリング情報」(22.3%)が2割台、「観光情報、来県の呼びかけ」(15.7%)、「再生可能エネルギーの導入推進などの先進的な取り組み」(11.7%)が1割台で続いている。

## 2. 心の健康について

### (1) 心の健康への関心の有無

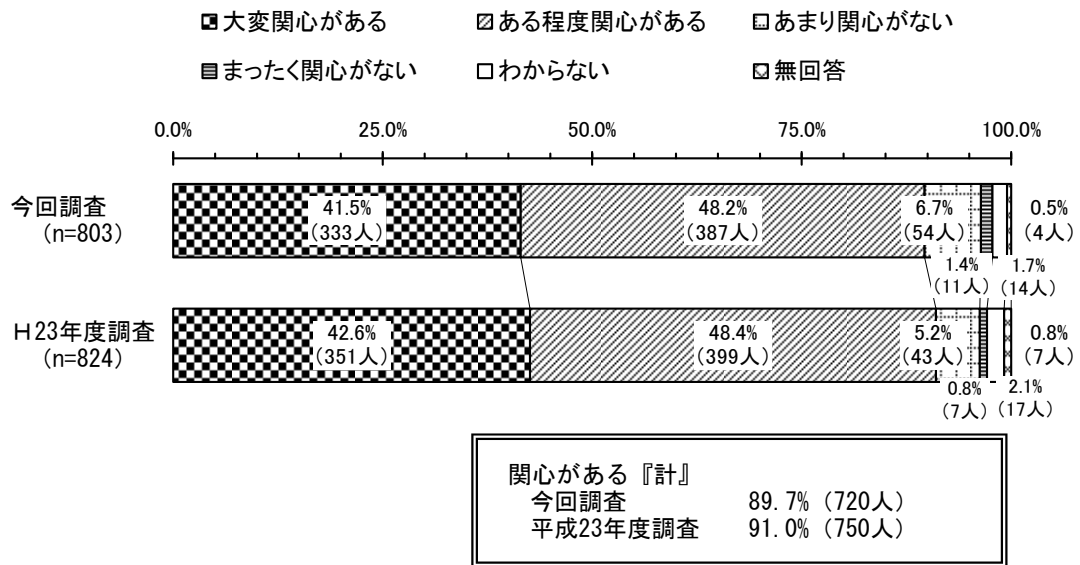
問6 あなたは心の健康について関心がありますか。  
あてはまるもの1つに○をつけてください。



心の健康に「大変関心がある」と回答した人は 41.5%で、これに「ある程度関心がある」(48.2%)を合わせた『関心がある』計の割合は 89.7%となっている。

一方、「まったく関心がない」は 1.4%で、これに「あまり関心がない」(6.7%)を合わせた『関心がない』計の割合は 8.1%となっている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】

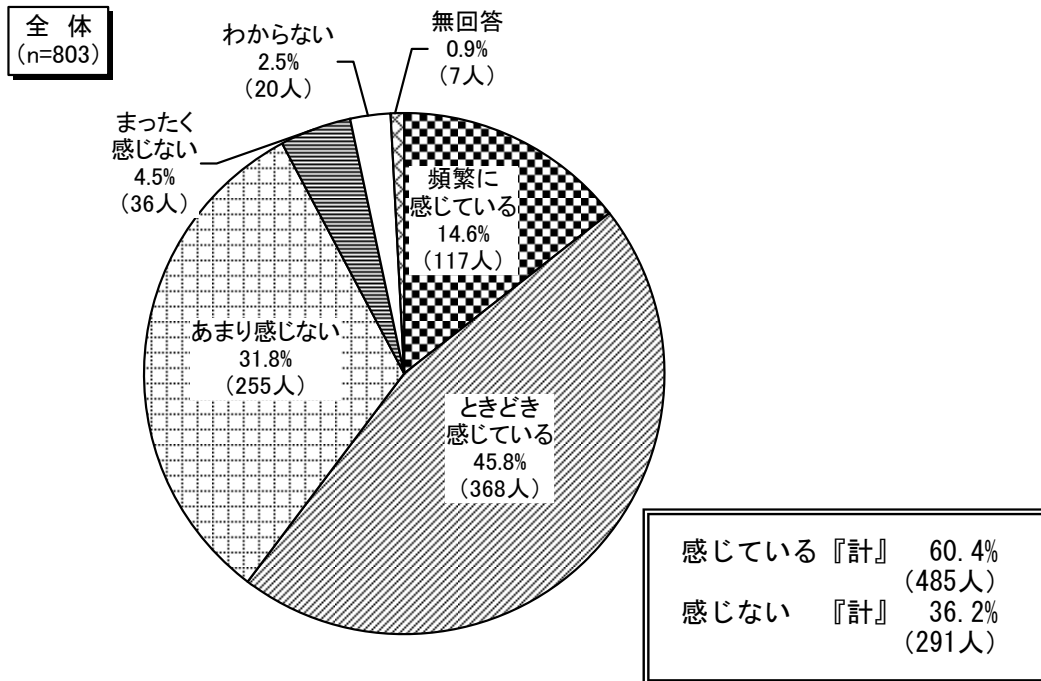


今回調査は、平成 23 年度調査と比較して差は見られない。

## (2) 精神的な疲労の認識

問7 ふだん、気分が落ち込む、あるいは精神的に疲れていると感じることがありますか。

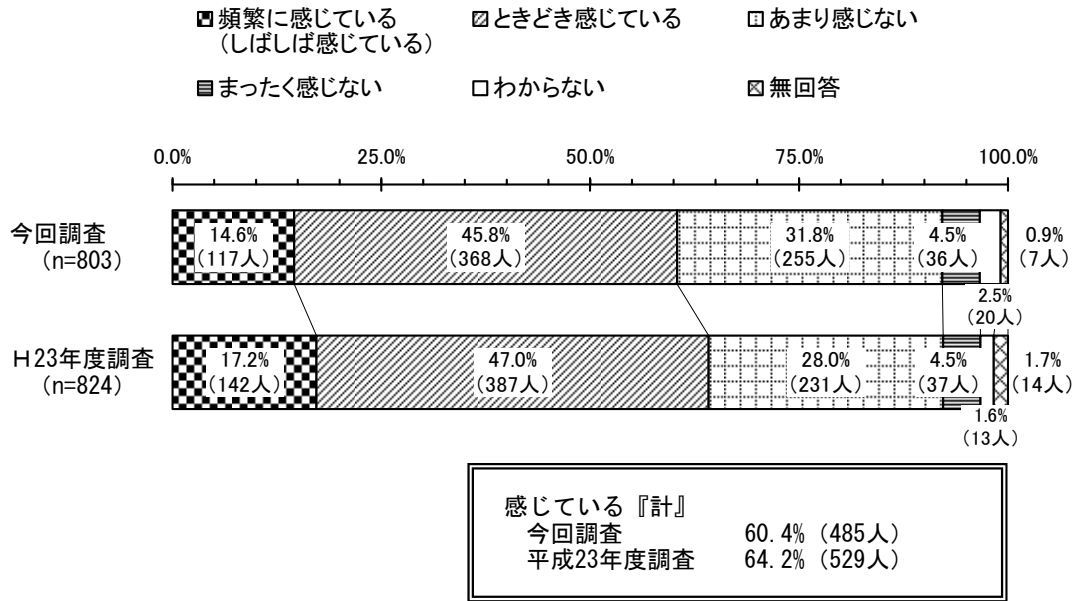
あてはまるもの1つに○をつけてください。



気分の落ち込みや精神的な疲労を「頻繁に感じている」と回答した人は 14.6%で、これに「ときどき感じている」(45.8%) を合わせた『感じている』計の割合は 60.4%となっている。

一方、「まったく感じない」は 4.5%で、これに「あまり感じない」(31.8%) を合わせた『感じない』計の割合は 36.2%となっている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】



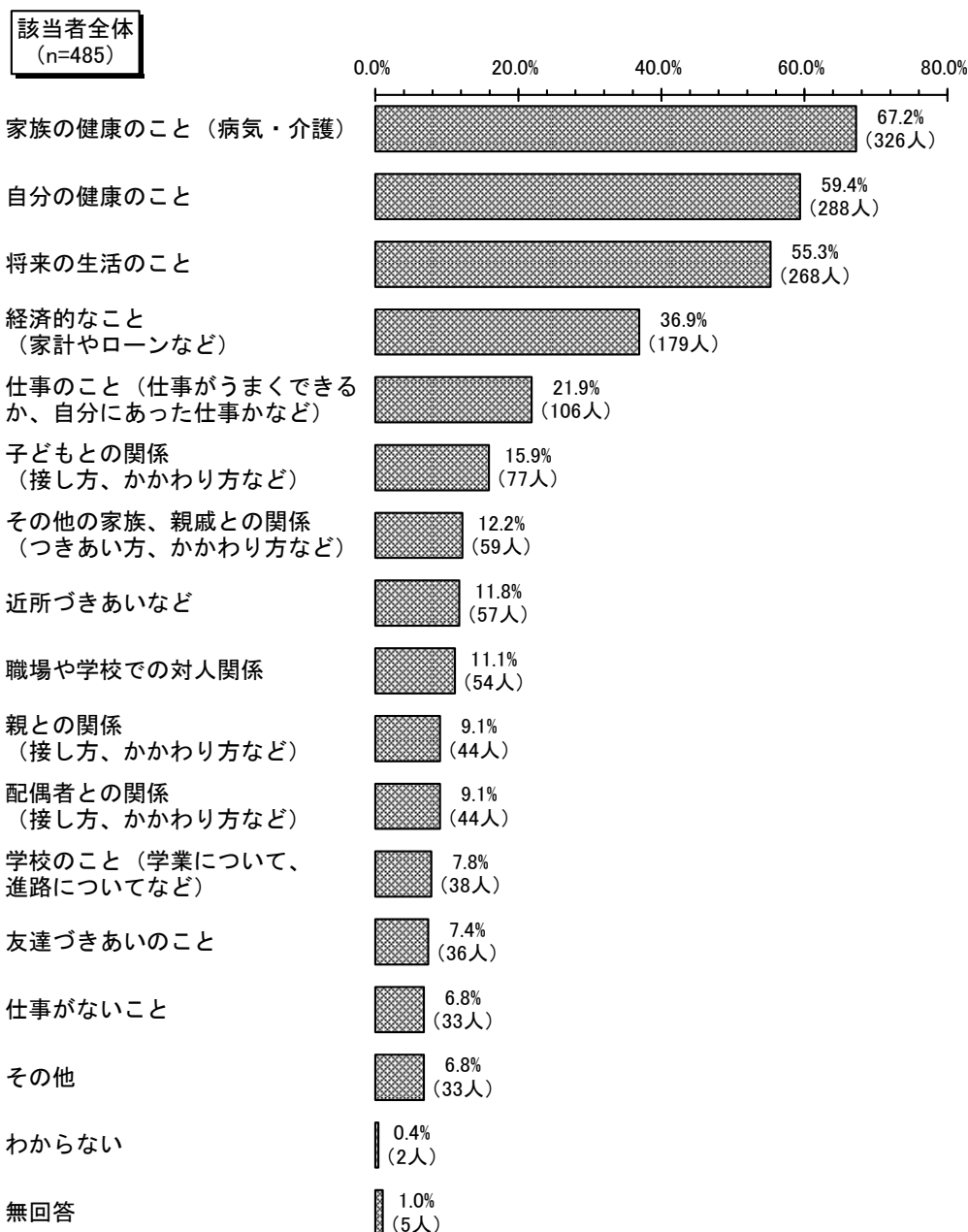
今回調査は、平成 23 年度調査と比較して差は見られない。

### (3) 心の負担になっていること

(問7で、「1 頻繁に感じている」、または「2 ときどき感じている」とお答えの方にお尋ねします。)

問7-1 主にどのようなことが心の負担になりますか。

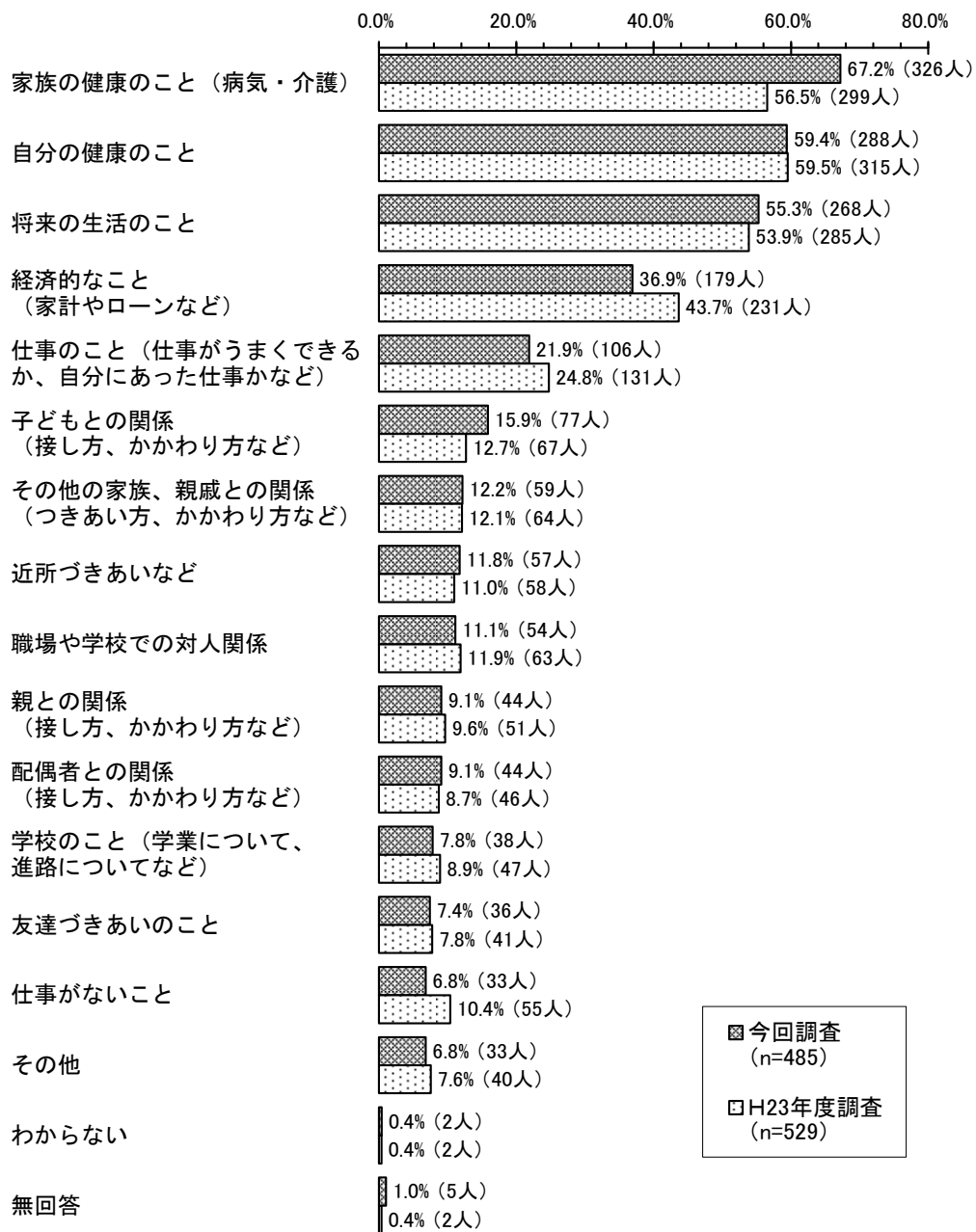
あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。



心の負担になることは、「家族の健康のこと (病気、介護)」(67.2%) が最も多く7割弱となっている。以下、「自分の健康のこと」(59.4%) と「将来の生活のこと」(55.3%) が5割台、「経済的なこと (家計やローンなど)」(36.9%) が3割台、「仕事のこと (仕事ができるか、自分にあった仕事かなど)」(21.9%) が2割台などとなっている。



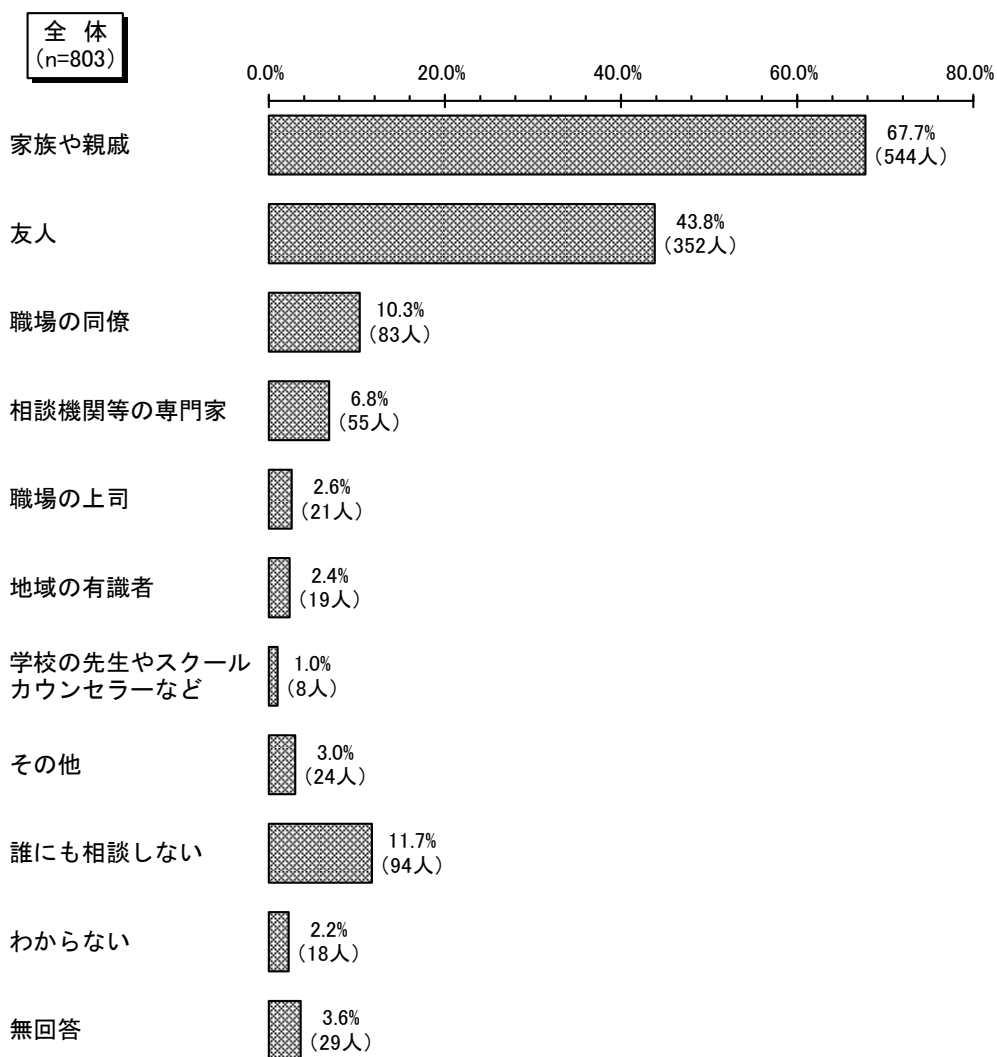
【参考 平成 23 年度調査との比較】



今回調査は平成 23 年度調査に比べて、「家族の健康のこと」、「子どもとの関係」の割合は高かった。一方、「経済的なこと」、「仕事がないこと」は低かった。

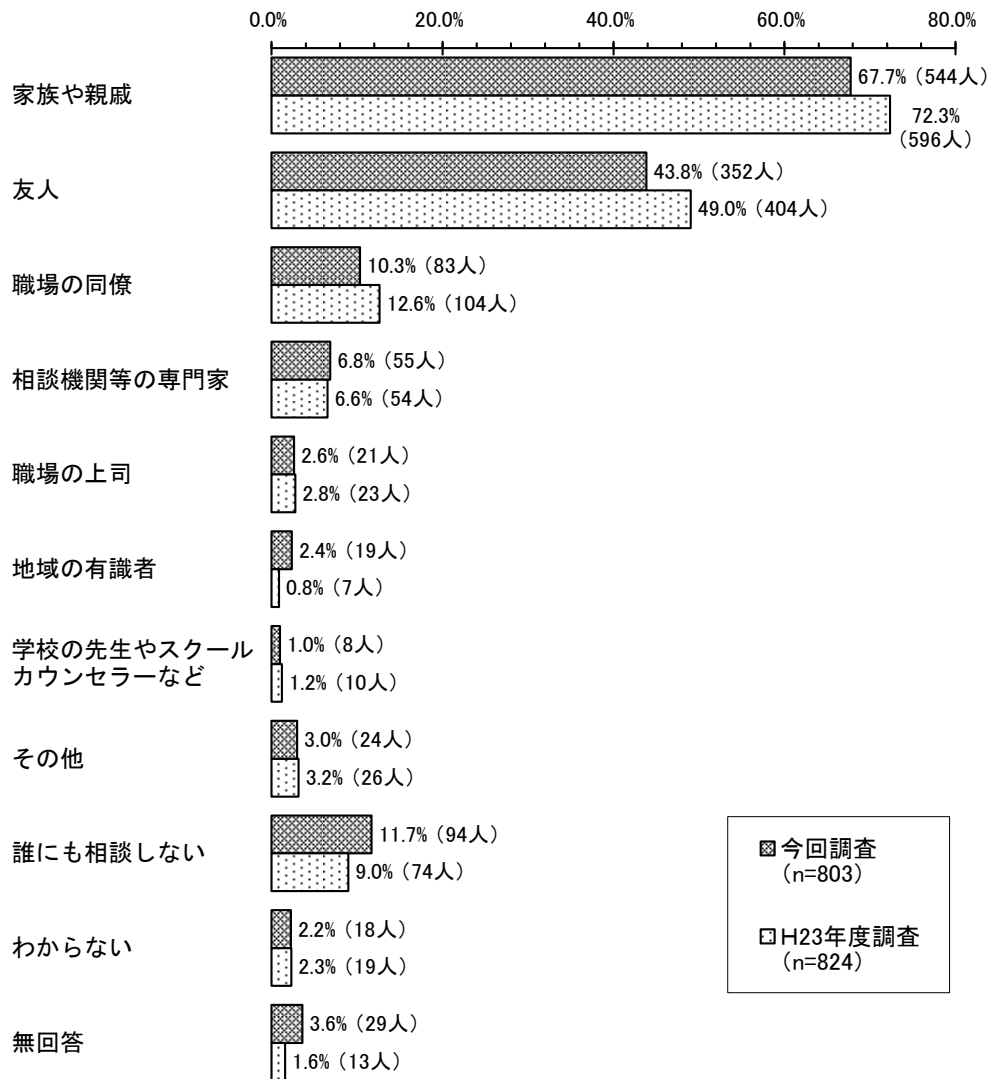
#### (4) 心の健康についての相談先

問8 心の健康について心配なことがある時、あなたは誰に相談しますか。  
あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。



心の健康の相談先は「家族や親戚」(67.7%)が最も多く、7割弱となっている。以下、「友人」(43.8%)が4割台、「職場の同僚」(10.3%)が1割台となっている。一方、「誰にも相談しない」が11.7%、「わからない」が2.2%となっている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】

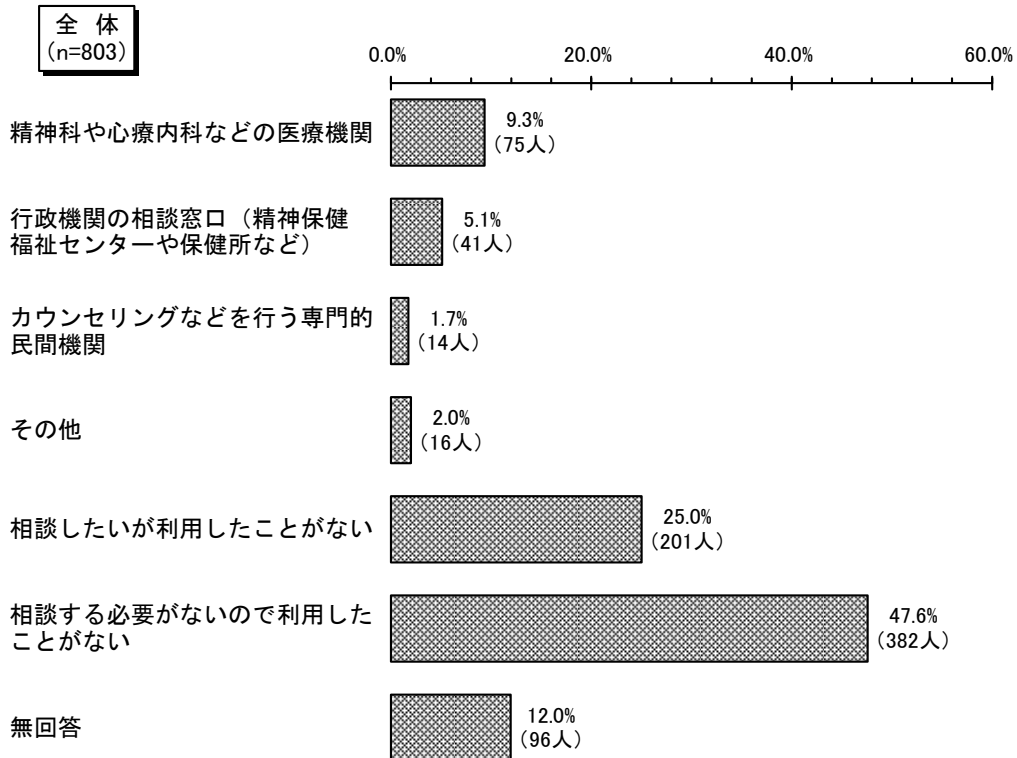


今回調査は平成 23 年度調査に比べて、「誰にも相談しない」、「地域の有識者」の割合は高く、「家族や親戚」、「友人」は低かった。

## (5) 利用したことのある相談機関

問9 心の健康について相談するため、どのような相談機関を利用したことがありますか。

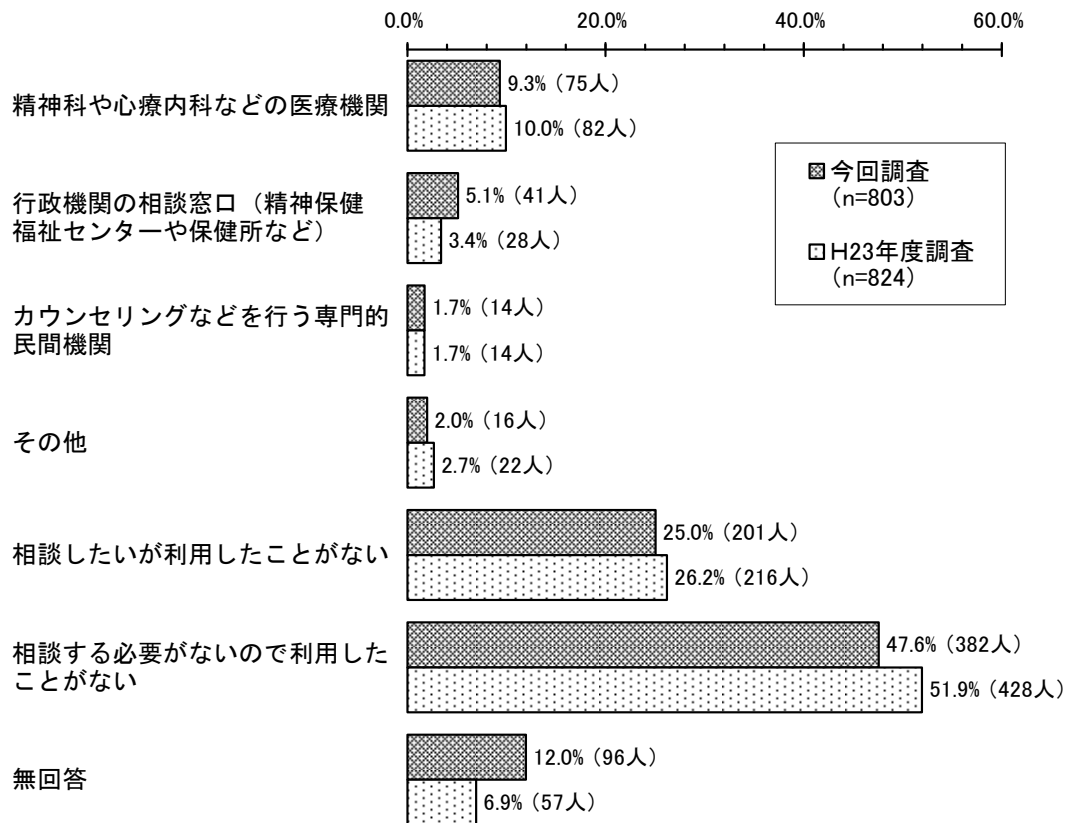
あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。



利用したことのある相談機関については、「相談する必要がないので利用したことがない」(47.6%)が最も多く5割弱となっている。次いで、「相談したいが利用したことがない」(25.0%)の順となっている。

一方、利用したことのある相談機関で回答が最も多かったものは、「精神科や心療内科などの医療機関」の9.3%となっている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】



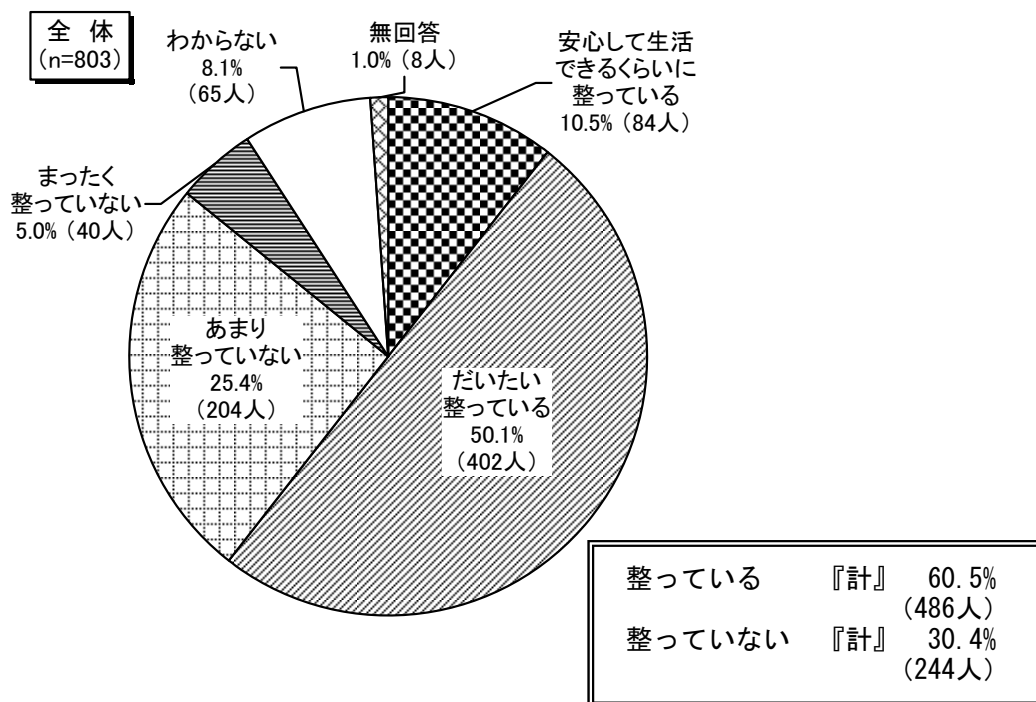
今回調査は平成 23 年度調査に比べて、「行政機関の相談窓口」の割合は高く、「相談する必要がないので利用したことはない」は低かった。問 8 と問 9 の結果を合わせると、家族や親戚への相談が減少した一方、誰にも相談しない、行政機関の相談窓口への相談または地域の有識者への相談が増えた形となっていた。

### 3. 救急医療について

#### (1) 休日・夜間の医療体制の整っている程度

問10 あなたが住んでいる地域の休日・夜間における医療体制は、どの程度整っていると思いますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。



住んでいる地域の休日・夜間における医療体制は「安心して生活できるくらいに整っている」と回答した人は10.5%で、これに「だいたい整っている」(50.1%)を合わせた『整っている』計の割合は60.5%となっている。

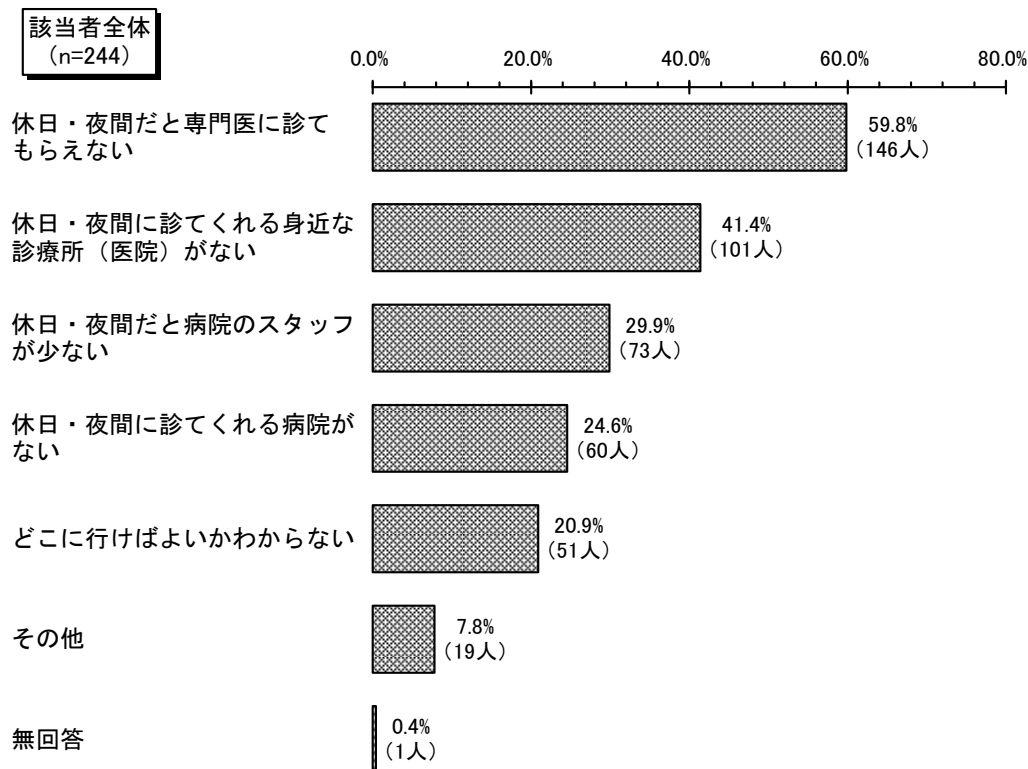
一方、「まったく整っていない」は5.0%で、これに「あまり整っていない」(25.4%)を合わせた『整っていない』計の割合は30.4%となっている。

## (2) 休日・夜間の医療体制の整っていない点

(問10で「3 あまり整っていない」または「4 まったく整っていない」とお答えの方にお尋ねします。)

問10-1 どのような点が整っていないと思いますか。

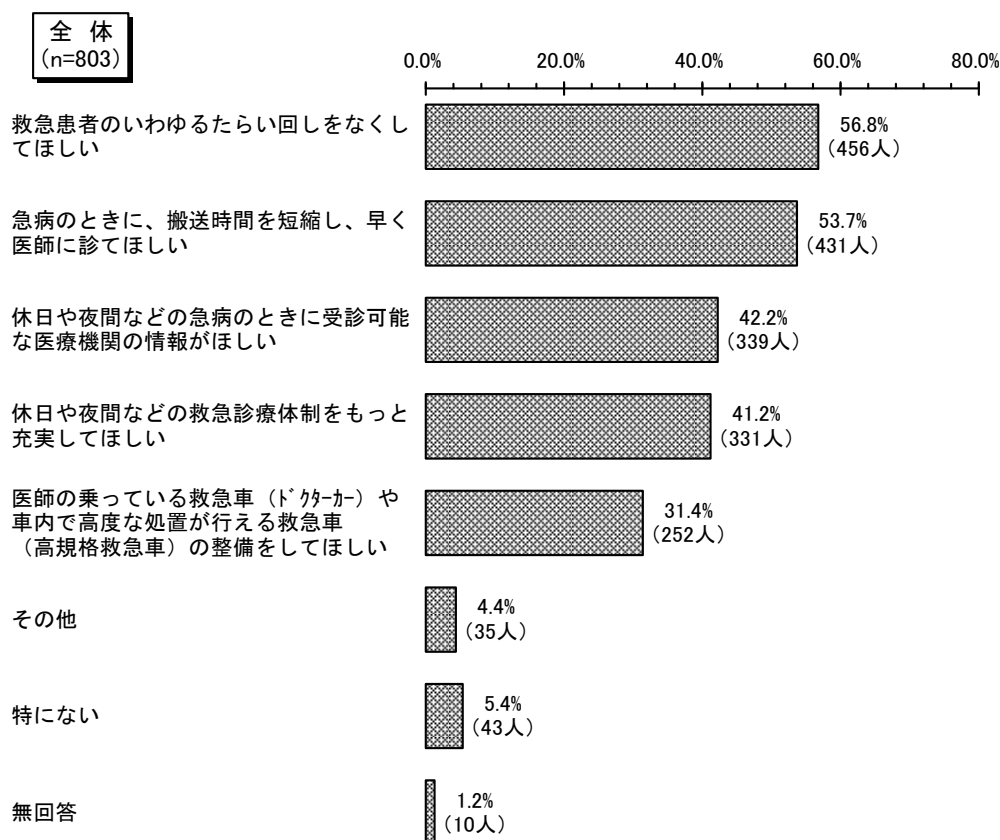
あてはまるものにもいくつでも○をつけてください。



医療体制が整っていないと思う点は、「休日・夜間だと専門医に診てもらえない」(59.8%)が最も多く、約6割となっている。以下、「休日・夜間に見てくれる身近な診療所(医院)がない」(41.4%)が4割強、「休日・夜間だと病院のスタッフが少ない」(29.9%)、「休日・夜間に診てくれる病院がない」(24.6%)、「どこに行けばよいかわからない」(20.9%)が2割台となっている。

### (3) 救急医療に期待すること

問11 あなたが住んでいる地域の救急医療について、何を期待しますか。  
あてはまるもの3つまで○をつけてください。



地域の救急医療に期待することは、「救急患者のいわゆるたらい回しをなくしてほしい」（56.8%）が最も多く、6割弱となっている。以下、「急病のときに、搬送時間を短縮し、早く医師に診てほしい」（53.7%）が5割強、「休日や夜間などの急病のときに受診可能な医療機関の情報がほしい」（42.2%）と「休日や夜間などの救急診療体制をもっと充実してほしい」（41.2%）が4割強、「医師の乗っている救急車（ドクターカー）や車内で高度な処置が行える救急車（高規格救急車）の整備をしてほしい」（31.4%）が3割強となっている。

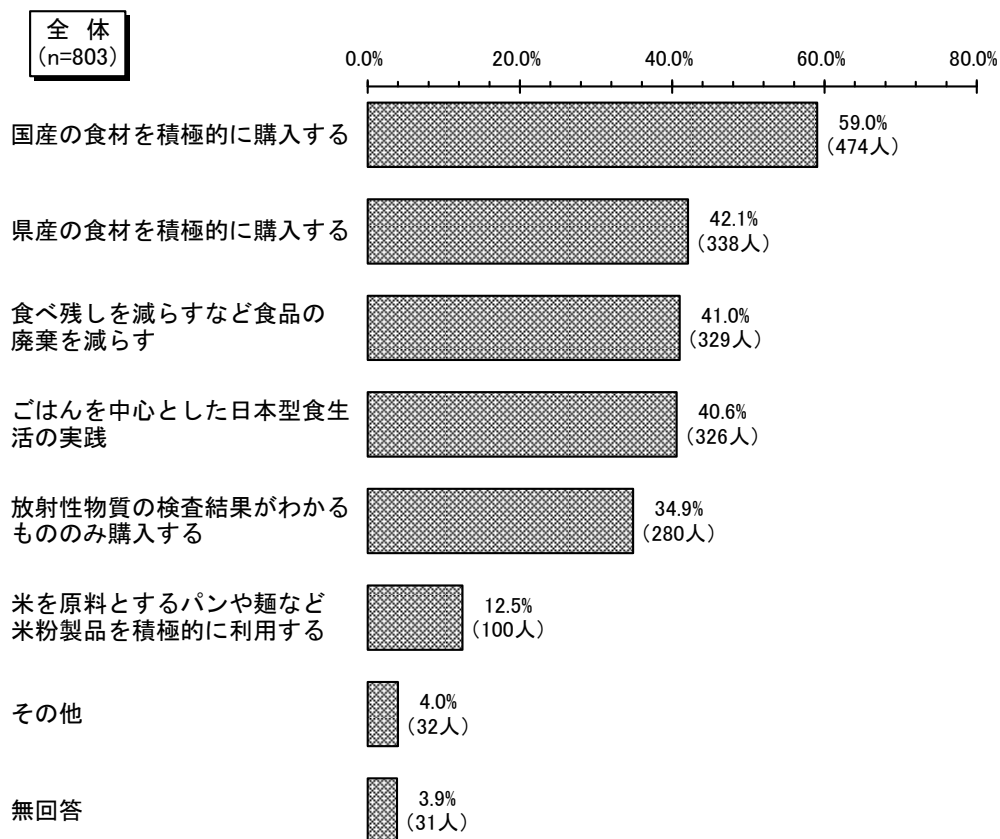


## 4. 農林水産業について

### (1) 農林水産物の購入や食生活で実践または実践したいこと

問 12 震災後、あなたが農林水産物の購入や食生活において、以下の行動のうち実践しているまたは実践したいと考えていることはありますか。

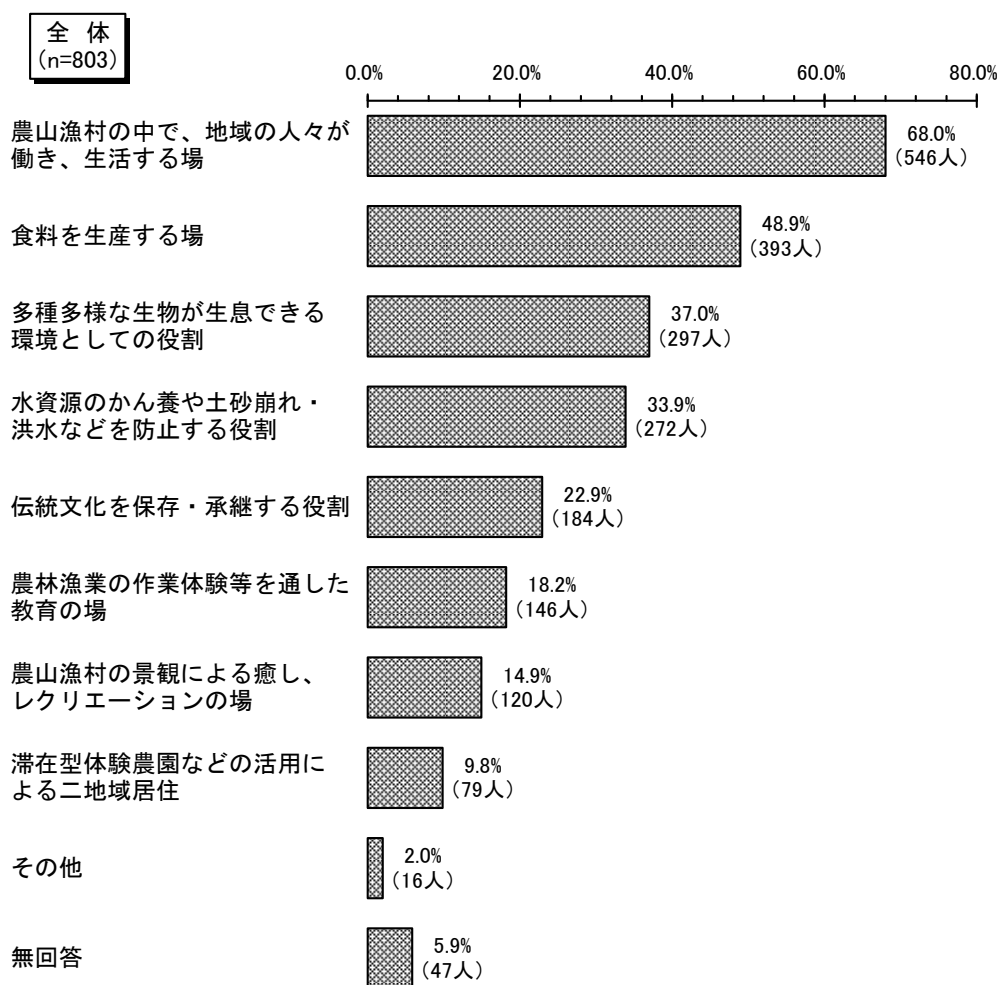
あてはまるものにもいくつでも○をつけてください。



震災後、農林水産物の購入や食生活で実践または実践したいことは、「国産の食材を積極的に購入する」(59.0%)と回答した人が最も多く、6割弱となっている。以下、「県産の食材を積極的に購入する」(42.1%)、「食べ残しを減らすなど食品の廃棄を減らす」(41.0%)、「ごはんを中心とした日本型食生活の実践」(40.6%)が4割台、「放射線物質の検査結果がわかるもののみ購入する」(34.9%)が3割台、「米を原料とするパンや麺など米粉製品を積極的に利用する」(12.5%)が1割台となっている。

## (2) 農山漁村に期待すること

問13 あなたが本県の農山漁村の役割として期待することは何ですか。  
あてはまるものにもいくつかでも○をつけてください。

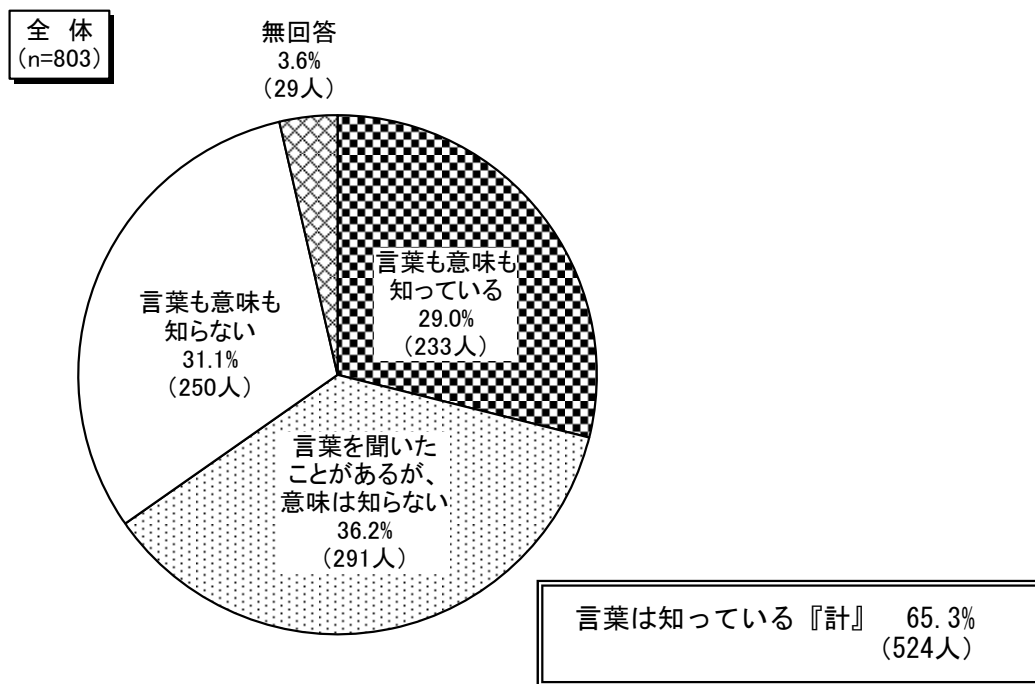


農山漁村の役割として期待することは、「農産漁村の中で、地域の人々が働き、生活する場」(68.0%)が最も多く、7割弱となっている。次いで、「食料を生産する場」(48.9%)が5割弱で続き、以下、「多種多様な生物が生息できる環境としての役割」(37.0%)と「水資源のかん養や土砂崩れ・洪水などを防止する役割」(33.9%)が3割台、「伝統文化を保存・承継する役割」(22.9%)が2割台、「農林漁業の作業体験等を通じた教育の場」(18.2%)と「農山漁村の景観による癒し、レクリエーションの場」(14.9%)が1割台、「滞在型体験農園などの活用による二地域居住」(9.8%)が1割弱となっている。

## 5. 生物多様性について

### (1) 「生物多様性」という言葉の認知状況

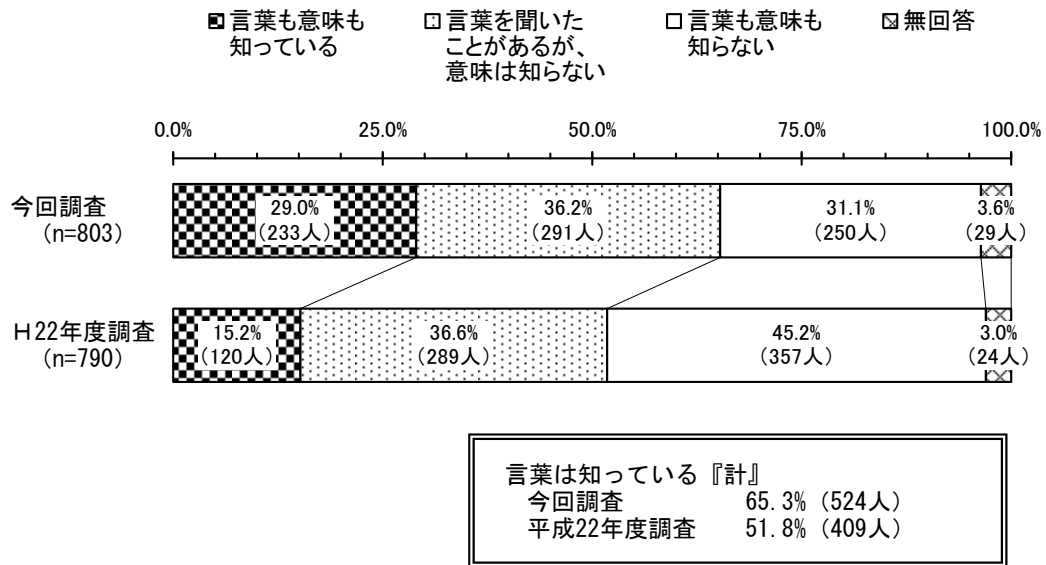
問 14 あなたは、「生物多様性」という言葉について知っていますか。  
あてはまるもの1つに○をつけてください。



「生物多様性」という「言葉も意味も知っている」人は 29.0%で、3割弱となっている。これに「言葉を聞いたことがあるが、意味は知らない」(36.2%)を合わせた『言葉は知っている』計の割合は 65.3%となっている。

一方、「言葉も意味も知らない」は 31.1%となっている。

【参考 平成 22 年度調査との比較】



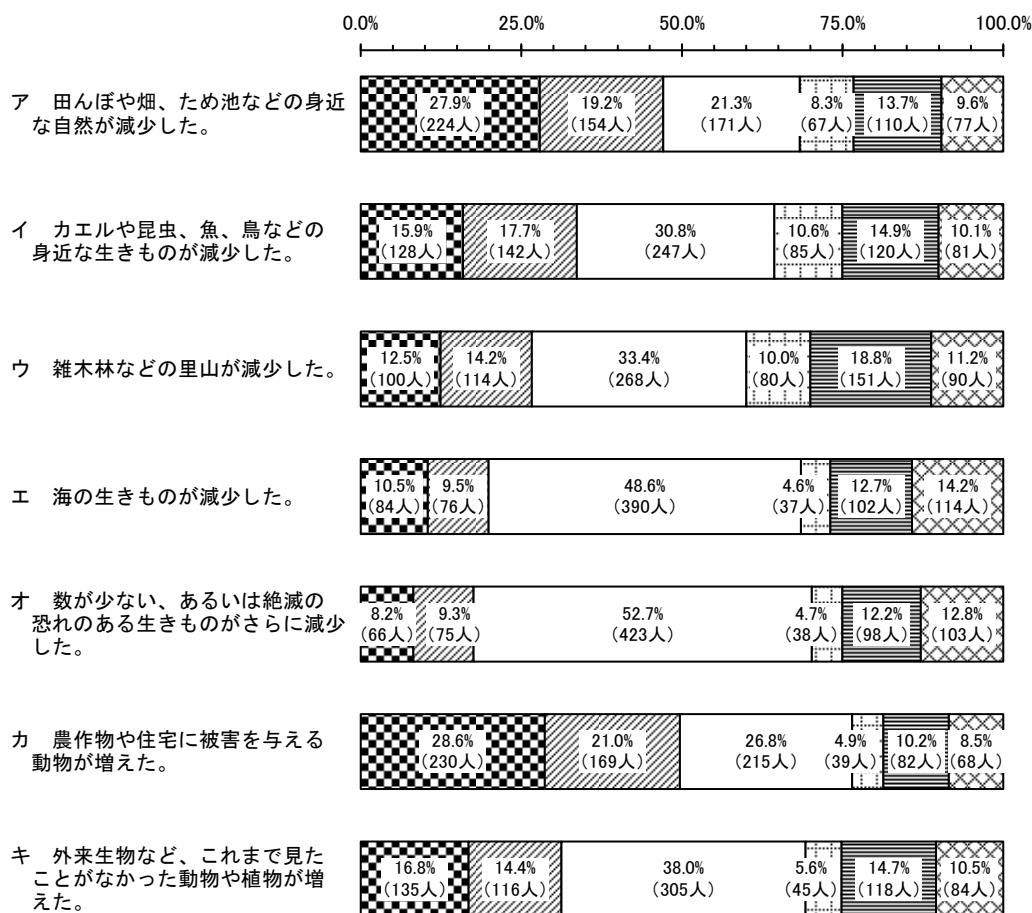
今回調査は平成 22 年度調査に比べて、『言葉は知っている』計の割合が、1割以上上昇している。

## (2) 震災前後での自然環境の変化

問 15 震災前と比較して、あなたの周りの身近な自然環境はどのように変化しましたか。  
それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

全体 (n=803)

あてはまる  
 どちらとも言えない・わからない  
 あてはまらない  
 どちらかと言えばあてはまる  
 どちらかと言えばあてはまらない  
 無回答



震災前と比較した身近な自然環境の変化は、〈農作物や住宅に被害を与える動物が増えた。〉に「あてはまる」(28.6%)と回答した人が最も多く、3割弱となっている。次いで、あまり差がなく〈田んぼや畑、ため池など身近な自然が減少した。〉(27.9%)が続いている。

「あてはまる」と「どちらかと言えばあてはまる」を合わせた『あてはまる』計の割合をみると、〈農作物や住宅に被害を与える動物が増えた。〉(49.7%)が最も多く、約5割となっている。以下、〈田んぼや畑、ため池など身近な自然が減少した。〉(47.1%)が5割弱、〈カエルや昆虫、魚、鳥などの身近な生きものが減少した。〉(33.6%)と〈外来生物など、これまで見たことがなかった動物や植物が増えた。〉(31.3%)が3割台、〈雑木林などの里山が減少した。〉(26.7%)が2割台となっている。

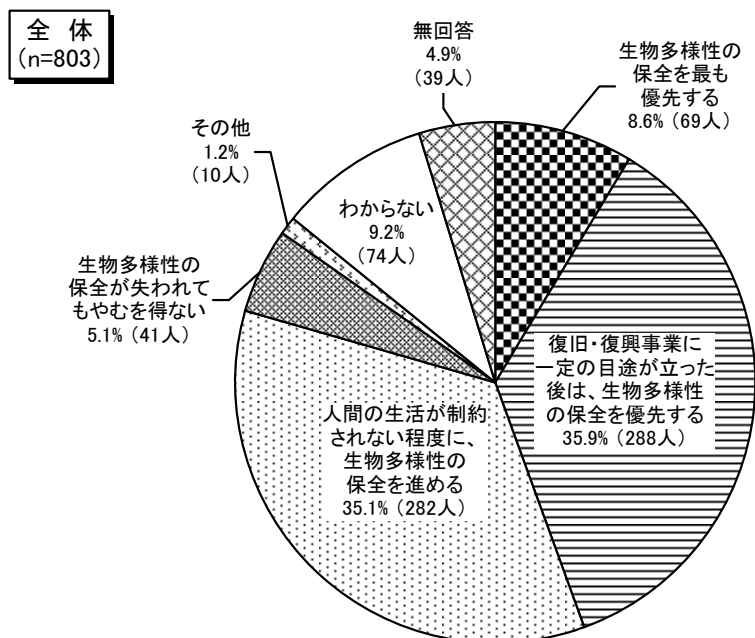
一方、「あてはまらない」と「どちらかと言えばあてはまらない」を合わせた『あてはまらない』計の割合は、〈雑木林などの里山が減少した。〉(28.8%)が最も多く、3割弱となっている。以下、〈カエルや昆虫、魚、鳥などの身近な生きものが減少した。〉(25.5%)、〈田んぼや畑、ため池など身近な自然が減少した。〉(22.0%)、〈外来生物など、これまで見たことがなかった動物や植物が増えた。〉(20.3%)が2割台となっている。

また、〈数少ない、あるいは絶滅の恐れのある生きものがさらに減少した。〉と〈海の生きものが減少した。〉は、「どちらとも言えない・わからない」の割合が多く、それぞれ52.7%、48.6%で5割前後となっている。

### (3) 生物多様性の保全と復旧・復興の優先度

問 16 生物多様性を保全していくことは大切ですが、一方で東日本大震災からの復旧・復興に取り組む必要もあります。あなたはこのことについてどのようにお考えでしょうか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。



生物多様性を保全していくことと東日本大震災からの復旧・復興の優先度は、「まずは復旧・復興事業を優先するが、一定の目途が立った後は、人間の生活にある程度制約があっても、生物多様性の保全を優先する」(35.9%) と考える人が最も多くなっている。次いで、差がなく「復旧・復興事業に関わらず、人間の生活が制約されない程度に、生物多様性の保全を進める」(35.1%) となっている。以下、「復旧・復興事業に関わらず、人間の生活にある程度制約があっても、生物多様性の保全を最も優先する」(8.6%)、「人間の生活の豊かさや便利さを確保するためには、生物多様性の保全が失われてもやむを得ない」(5.1%) と続いている。

また、「わからない」が9.2%となっている。

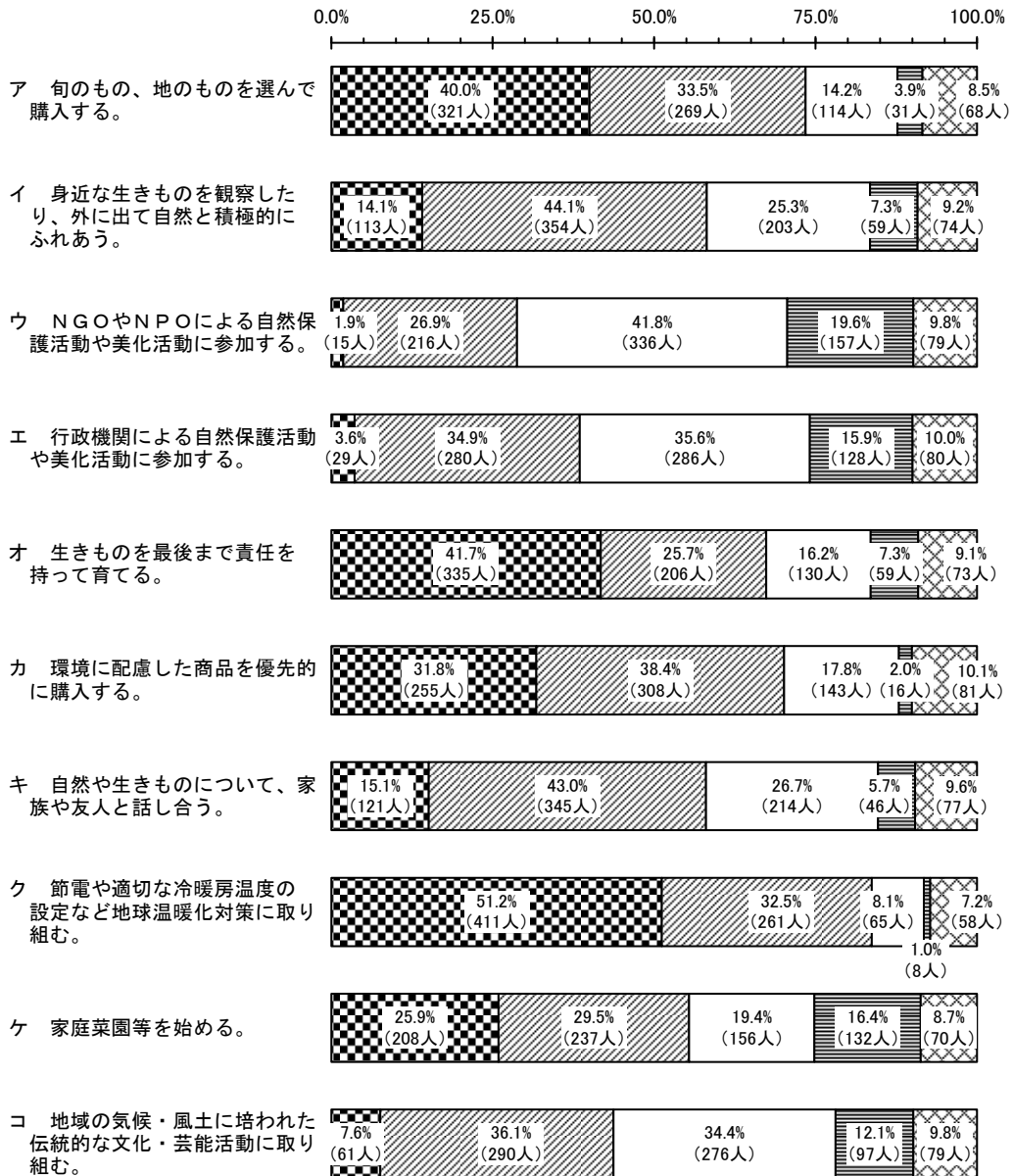
#### (4) 今後実践したいライフスタイル

問17 あなたは、生物多様性に配慮したライフスタイルとして、これからどのようなことを行いたいと思いますか。

それぞれ1～4の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

全体  
(n=803)

- ☐ 積極的に取り組みたい
- ☑ 機会があれば取り組みたい
- どちらとも言えない・わからない
- 取り組みたいとは思わない
- ☒ 無回答





生物多様性に配慮したライフスタイルとして「積極的に取り組みたい」ことは、〈節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組む。〉(51.2%)と回答した人が最も多く、5割強となっている。次いで、〈生きものを最後まで責任を持って育てる。〉(41.7%)と〈旬のもの、地のものを選んで購入する。〉(40.0%)が4割台で続いている。

「積極的に取り組みたい」と「機会があれば取り組みたい」を合わせた『取り組みたい』計の割合をみると、〈節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組む。〉(83.7%)が最も多く、8割強となっている。以下、〈旬のもの、地のものを選んで購入する。〉(73.5%)と〈環境に配慮した商品を優先的に購入する。〉(70.1%)が7割台、〈生きものを最後まで責任を持って育てる。〉(67.4%)が6割台、〈身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう。〉(58.2%)、〈自然や生きものについて、家族や友人と話し合う。〉(58.1%)、〈家庭菜園等を始める。〉(55.4%)が5割台となっている。

一方、「取り組みたいとは思わない」の割合は、〈NGOやNPOによる自然保護活動や美化活動に参加する。〉(19.6%)が最も多く、約2割となっている。次いで、〈家庭菜園等を始める。〉(16.4%)が続いている。

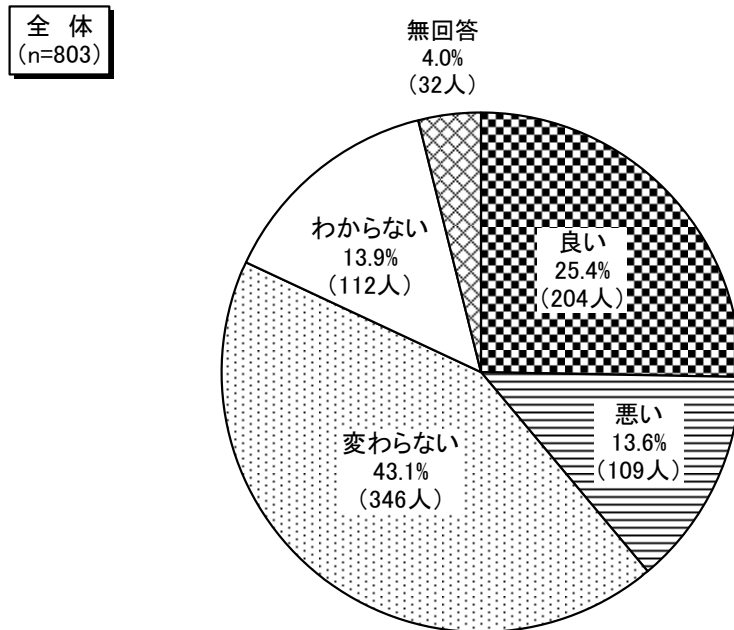
また、〈NGOやNPOによる自然保護活動や美化活動に参加する。〉、〈行政機関による自然保護活動や美化活動に参加する。〉、〈地域の気候・風土に培われた伝統的な文化・芸能活動に取り組む。〉は、「どちらとも言えない・わからない」の割合が高く、それぞれ41.8%、35.6%、34.4%となっている。

## 6. 地域社会の安全・安心（治安）について

### （1）現在の治安状況

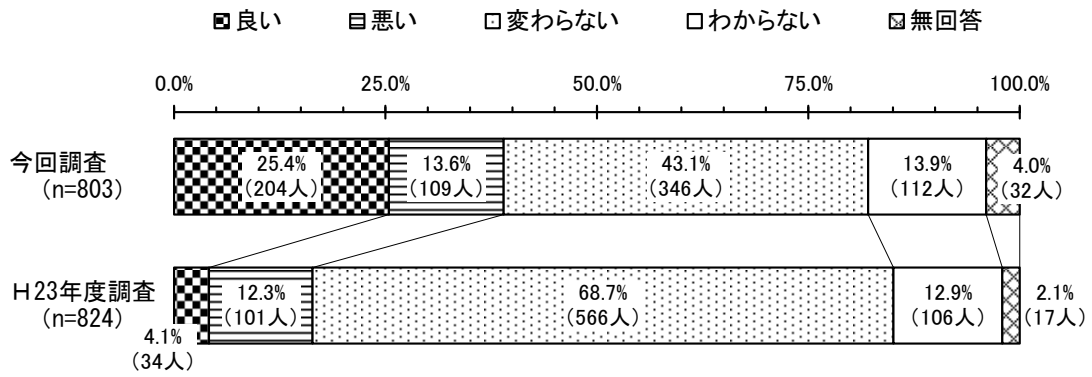
問18 東日本大震災から2年余りが経過しましたが、現在あなたが住んでいる地域（仮設住宅・借り上げ住宅も含む）の治安は良いと思いますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。



現在の居住地の治安状況が「良い」と思う人は25.4%となっている。一方、治安状況が「悪い」（13.6%）と思う人は1割強となっている。また、「変わらない」（43.1%）が4割強となっている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】



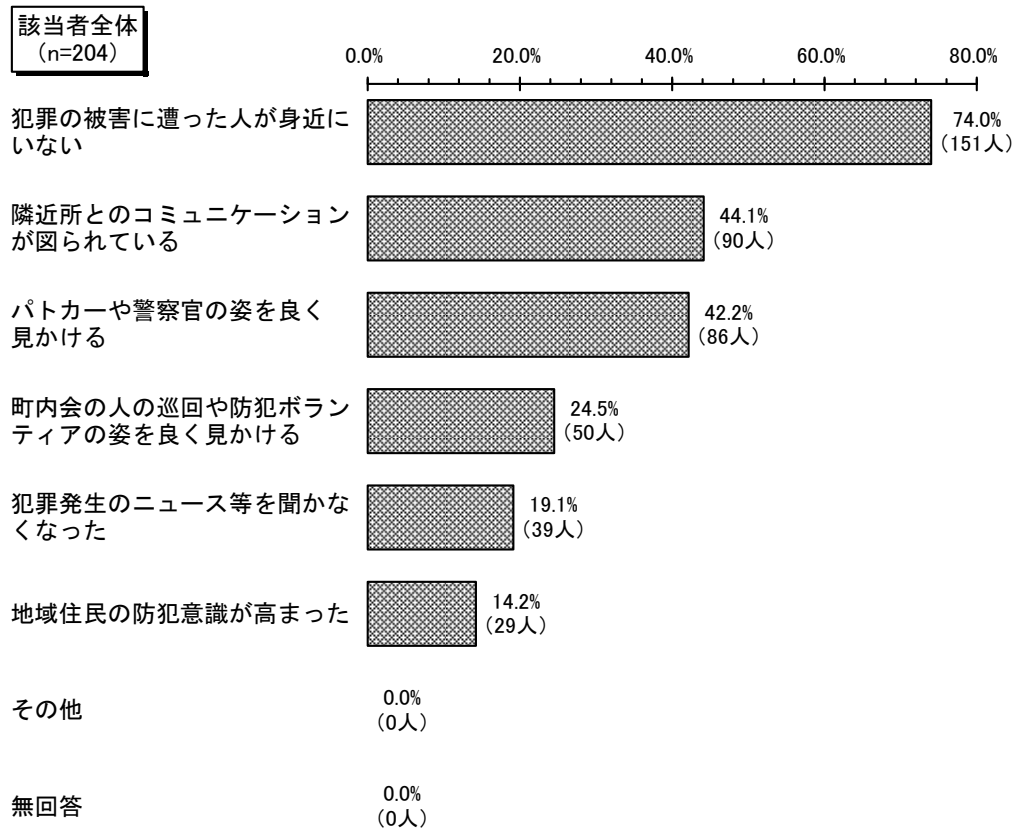
今回調査は平成 23 年度調査に比べて、「良い」の割合が、大きく上昇している。

## (2) 治安状況が良いと思う理由

(問 18 で、「1 良い」とお答えの方にお尋ねします。)

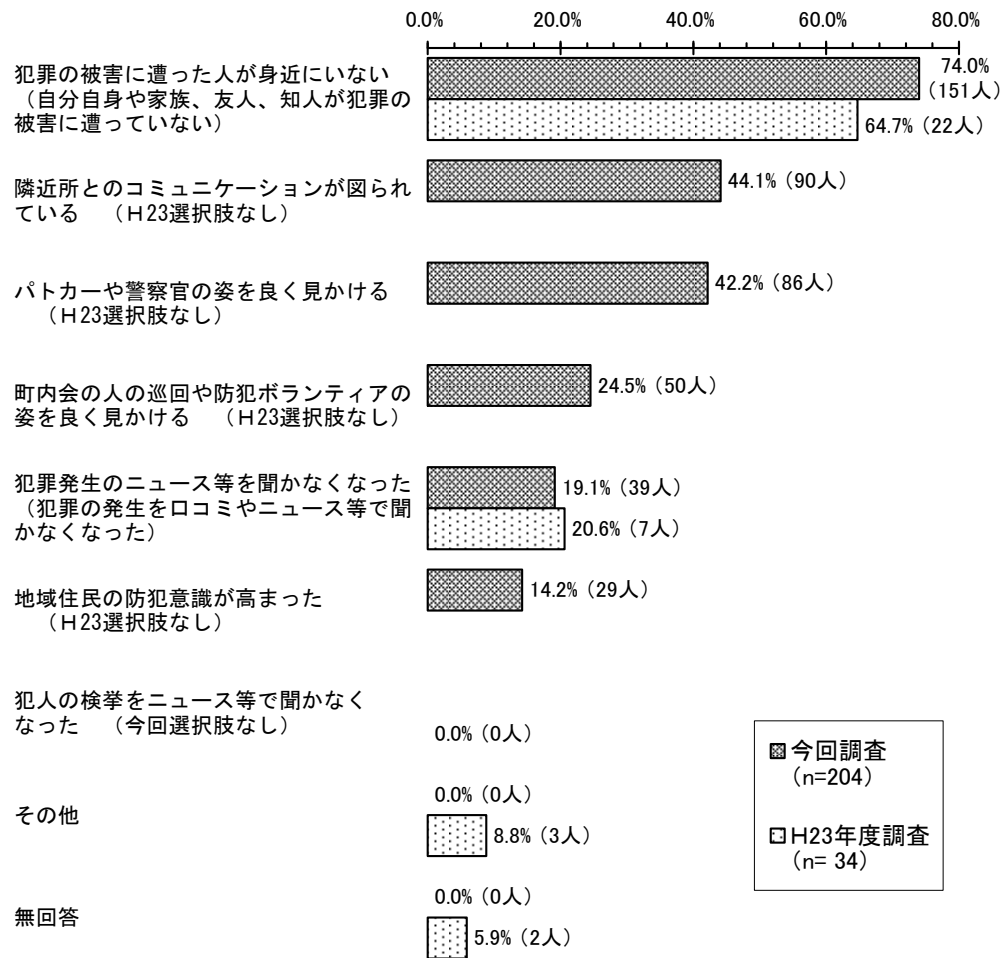
問 18-1 良いと思う理由は何ですか。

あてはまるものにもいくつでも○をつけてください。



治安状況が良いと思う理由は、「犯罪の被害に遭った人が身近にいない」(74.0%)が最も多く、7割強となっている。以下、「隣近所とのコミュニケーションが図られている」(44.1%)と「パトカーや警察官の姿を良く見かける」(42.2%)が4割台、「町内会の人や巡回や防犯ボランティアの姿を良く見かける」(24.5%)が2割台で続いている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】



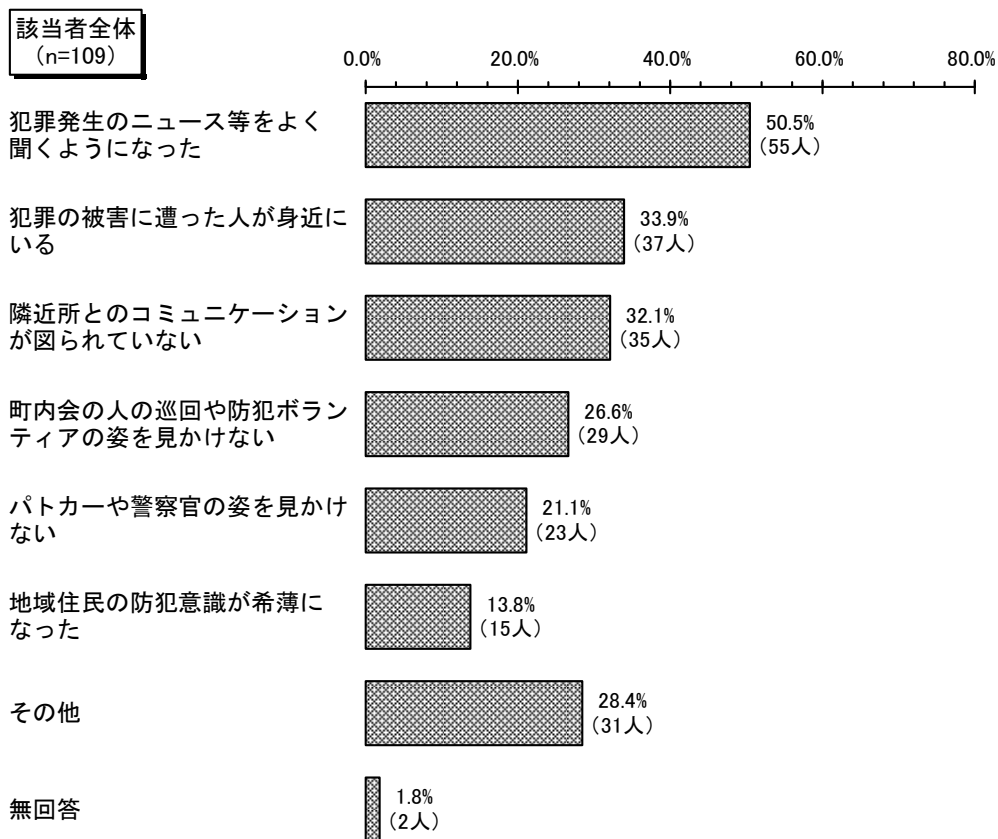
※今回調査は複数回答、平成 23 年度は単数回答、また選択肢も異なるため、図のみの掲載に留めた。

### (3) 治安状況が悪いと思う理由

(問 18 で、「2 悪い」とお答えの方にお尋ねします。)

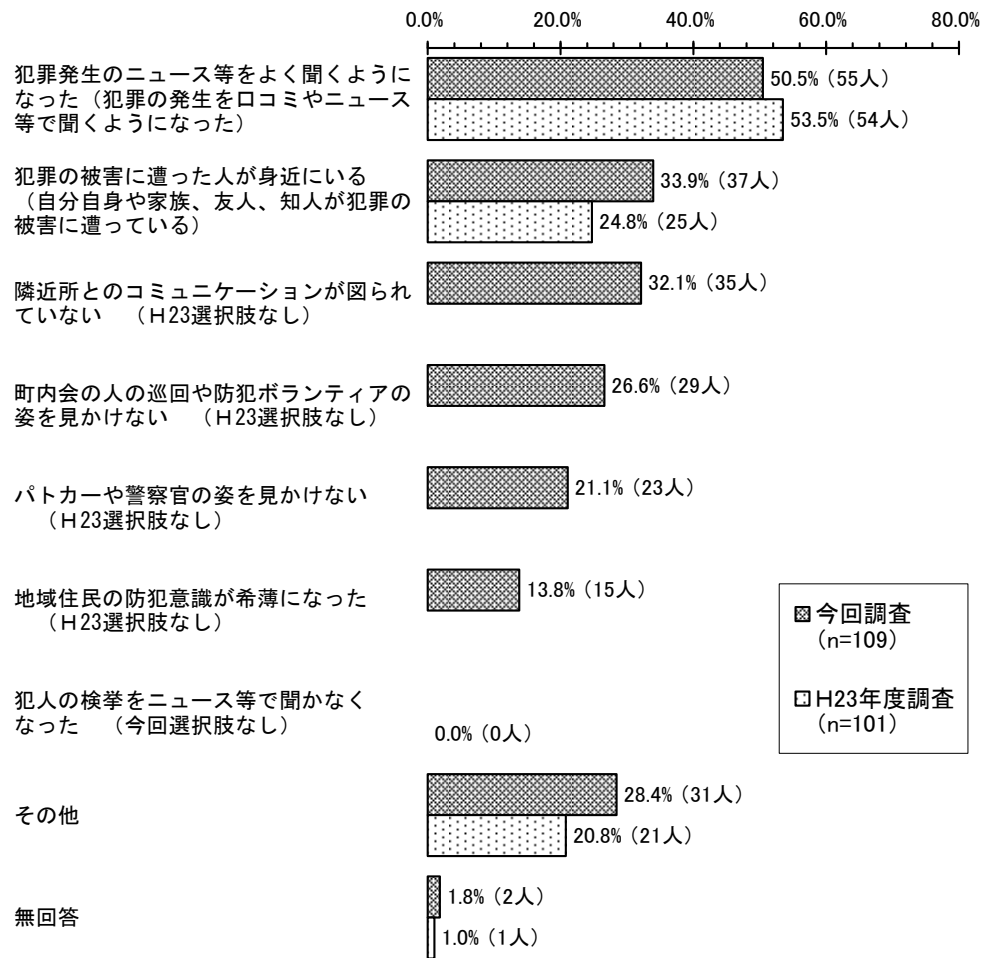
問 18-2 悪いと思う理由は何ですか。

あてはまるものにもいくつでも○をつけてください。



治安状況が悪いと思う理由は、「犯罪発生のニュース等をよく聞くようになった」(50.5%)が最も多くなっている。以下、「犯罪の被害に遭った人が身近にいる」(33.9%)と「隣近所とのコミュニケーションが図られていない」(32.1%)が3割台、「町内会の人々の巡回や防犯ボランティアの姿を見かけない」(26.6%)と「パトカーや警察官の姿を見かけない」(21.1%)が2割台で続いている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】

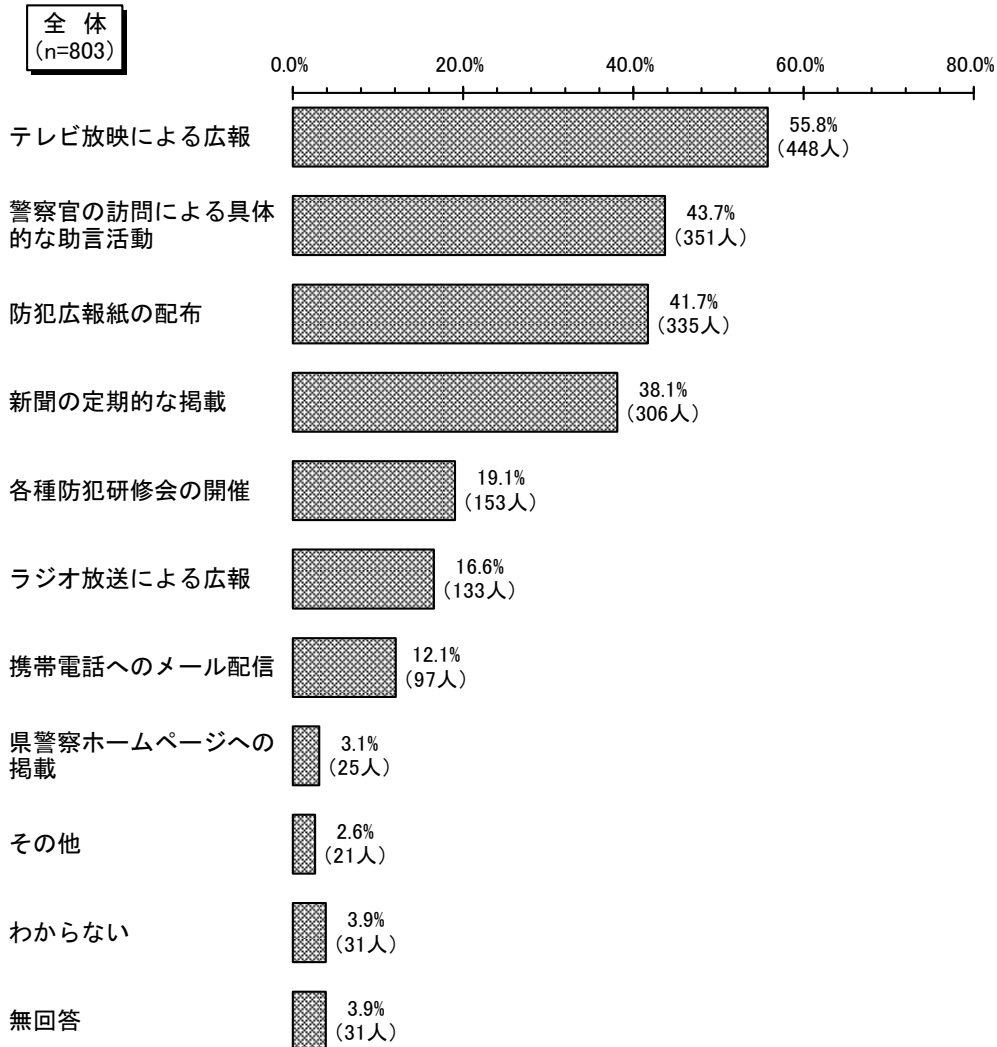


※今回調査は複数回答、平成 23 年度は単数回答、また選択肢も異なるため、図のみの掲載に留めた。

#### (4) 犯罪の発生状況や防止方法等の情報の提供手段

問19 犯罪の発生状況や犯罪を未然に防止する方法等の情報について、どのような形で提供されるのがよいと思いますか。

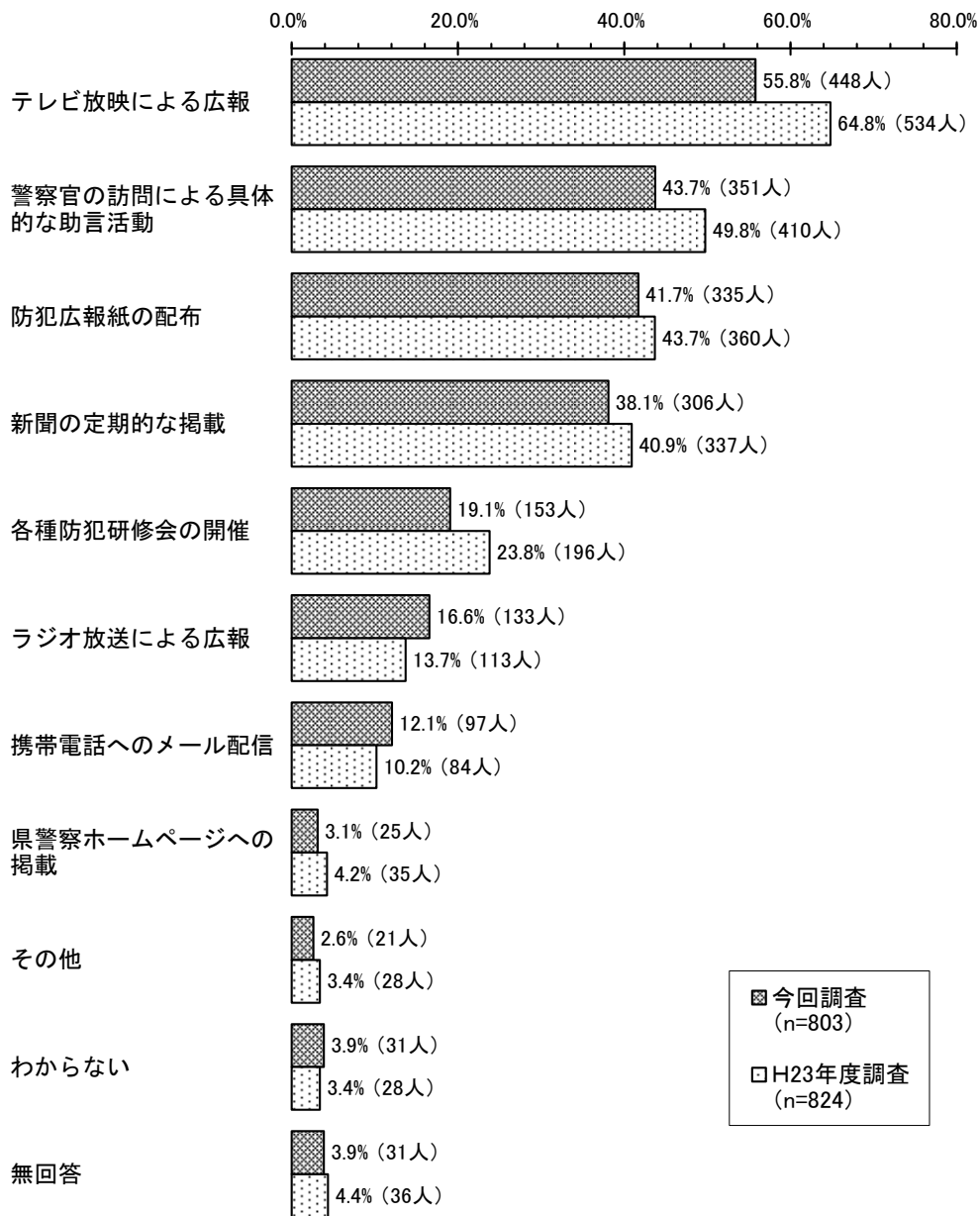
あてはまるもの3つまで○をつけてください。



犯罪の発生状況や防止方法等の情報の提供方法については、「テレビ放映による広報」(55.8%)が最も多く、5割を超えた。以下、「警察官の訪問による具体的な助言活動」(43.7%)と「防犯広報紙の配布」(41.7%)が4割台、「新聞の定期的な掲載」(38.1%)が3割台、「各種防犯研修会の開催」(19.1%)、「ラジオ放送による広報」(16.6%)、「携帯電話へのメール配信」(12.1%)が1割台が続いている。



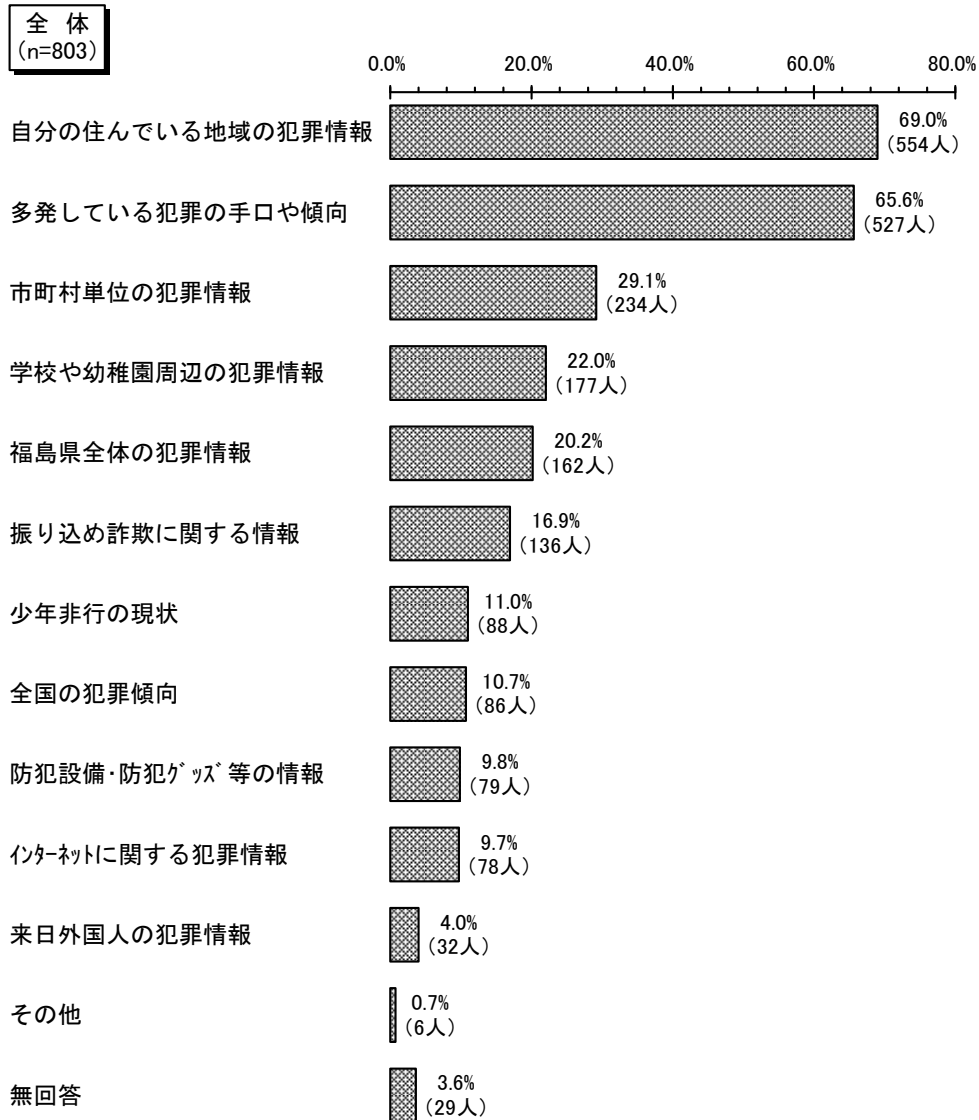
【参考 平成 23 年度調査との比較】



今回調査、平成 23 年度調査ともに回答数の多い順位は同じであるが、ほとんどの項目で平成 23 年度調査よりも割合が低下している。

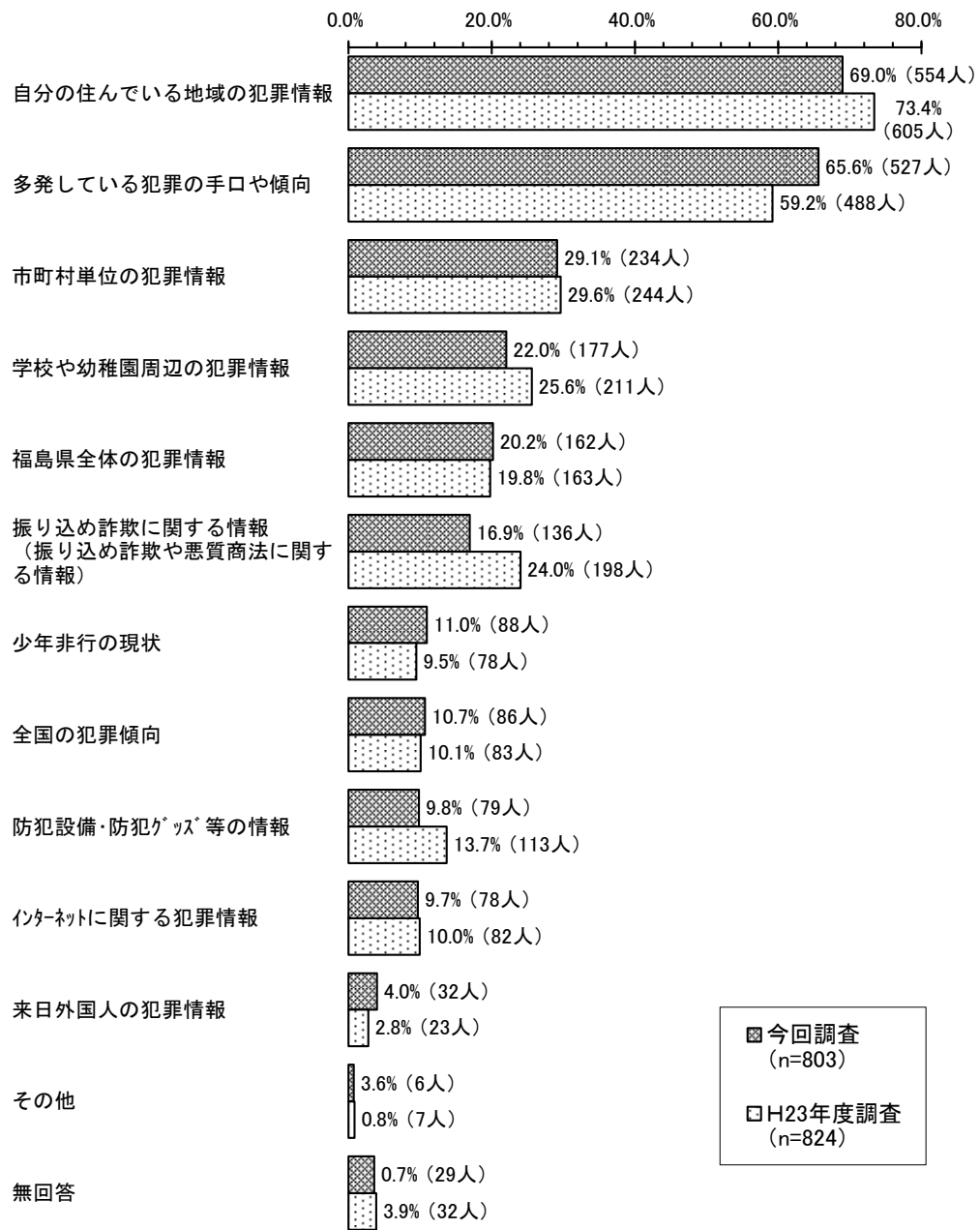
## (5) 犯罪に関して知りたい情報

問20 犯罪に関するどのような情報が知りたいですか。  
あてはまるもの3つまで○をつけてください。



犯罪に関して知りたい情報は、「自分の住んでいる地域の犯罪情報」(69.0%)が最も多く7割弱となっている。次いであまり差がなく、「多発している犯罪の手口や傾向」(65.6%)が6割台が続いている。以下、「市町村単位の犯罪情報」(29.1%)、「学校や幼稚園周辺の犯罪情報」(22.0%)、「福島県全体の犯罪情報」(20.2%)、「振り込め詐欺に関する情報」(16.9%)の順となっている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】

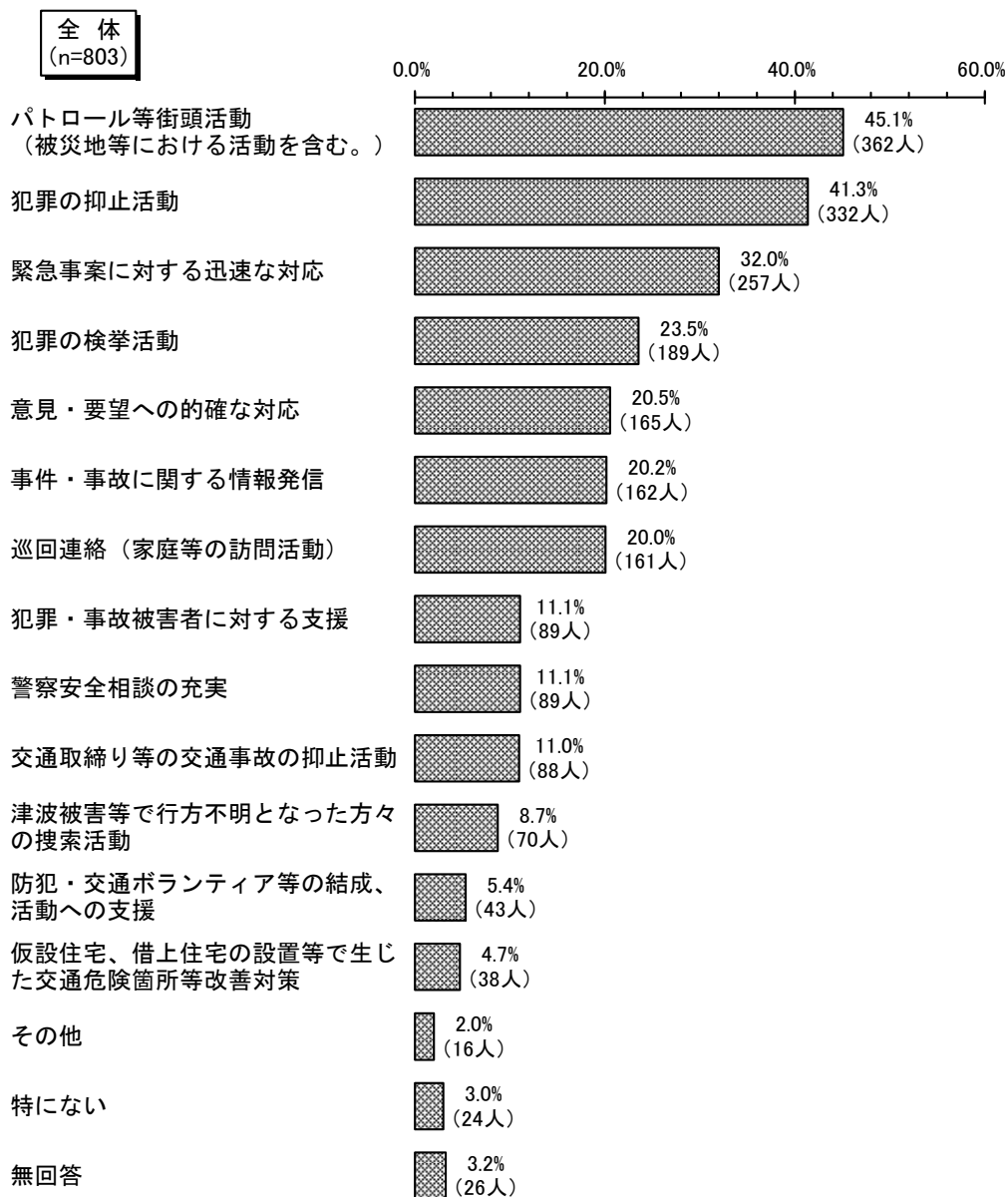


今回調査は平成 23 年度調査に比べて、「多発している犯罪の手口や傾向」の割合が上昇し、「振り込め詐欺に関する情報」の割合が低下している。

## (6) 警察に強化してほしい活動

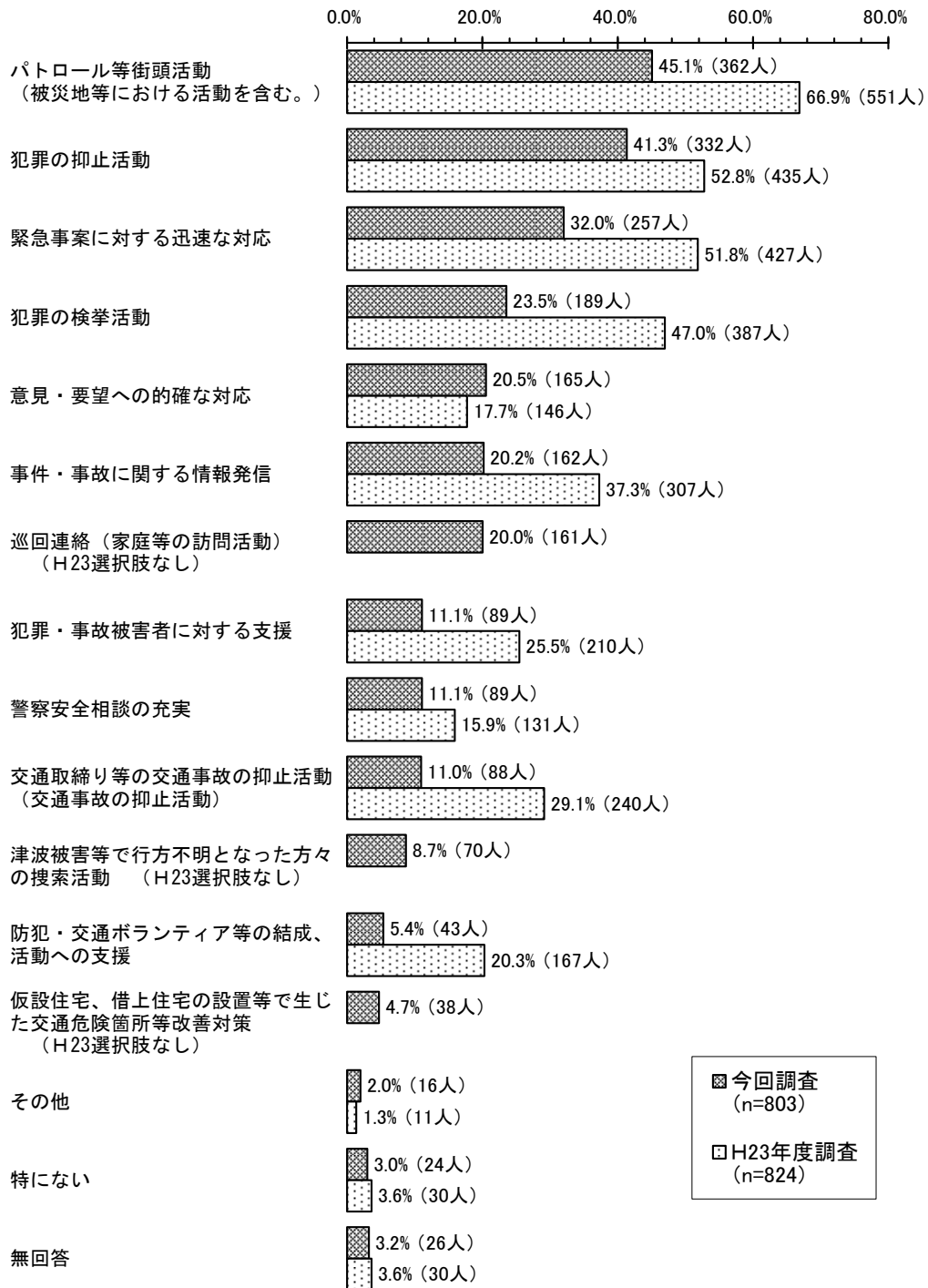
問21 震災から1日も早く復興し、安全・安心な地域社会をつくるため、警察にどのような活動を強化してほしいと考えますか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。



警察に強化してほしい活動は、「パトロール等街頭活動(被災地等における活動を含む。)」(45.1%)が最も多くなっている。以下、「犯罪の抑止活動」(41.3%)が同じく4割台で続き、「緊急事案に対する迅速な対応」(32.0%)が3割台、「犯罪の検挙活動」(23.5%)、「意見・要望への的確な対応」(20.5%)、「事件・事故に関する情報発信」(20.2%)、「巡回連絡(家庭等の訪問活動)」(20.0%)が2割台、「犯罪・事故被害者に対する支援」(11.1%)、「警察安全相談の充実」(11.1%)、「交通取締り等の交通事故の抑止活動」(11.0%)が1割台となっている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】

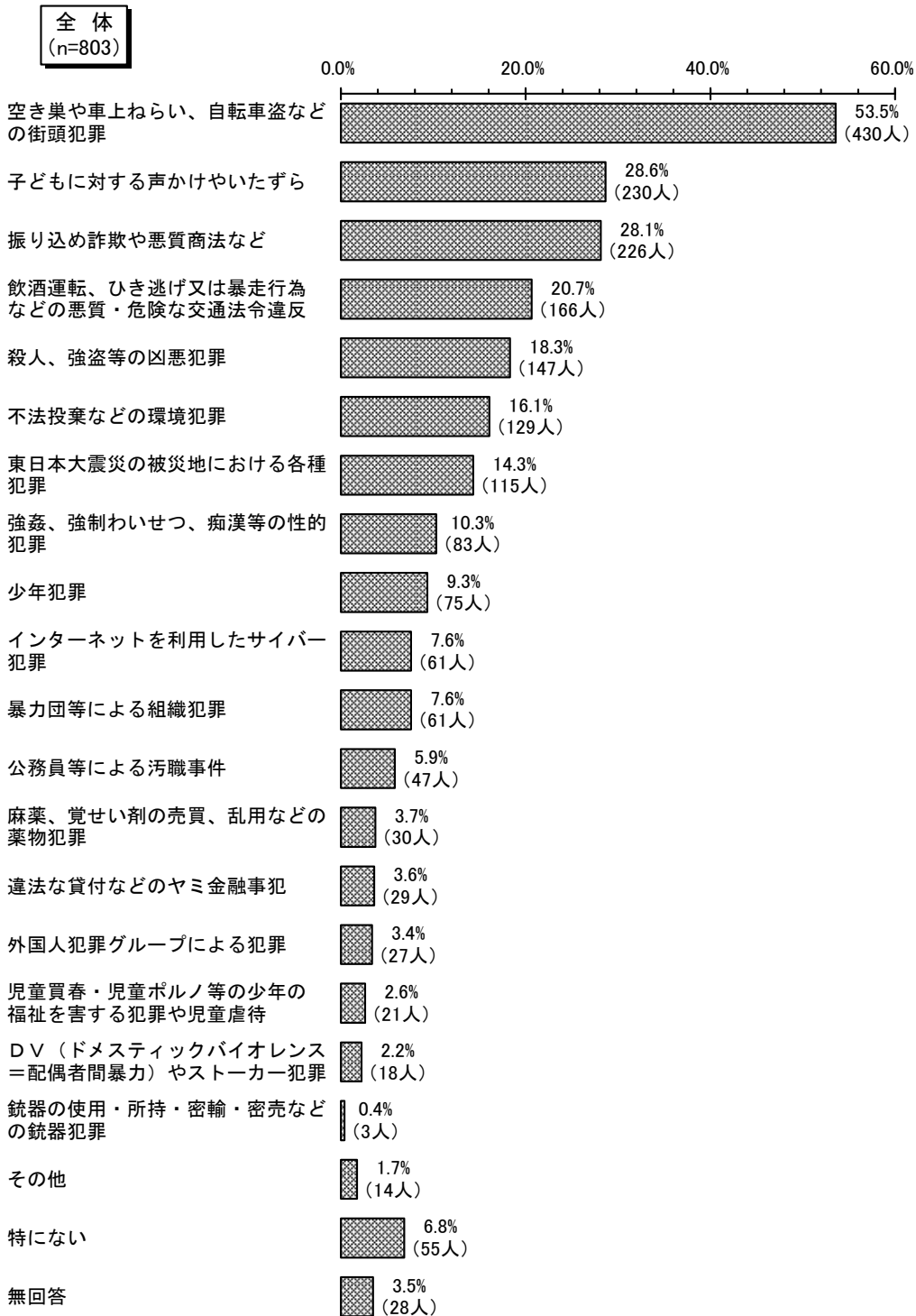


※今回調査と平成 23 年度調査では回答選択数が異なるため、図のみの掲載に留めた。

## (7) 重点的に取り締まってほしい犯罪

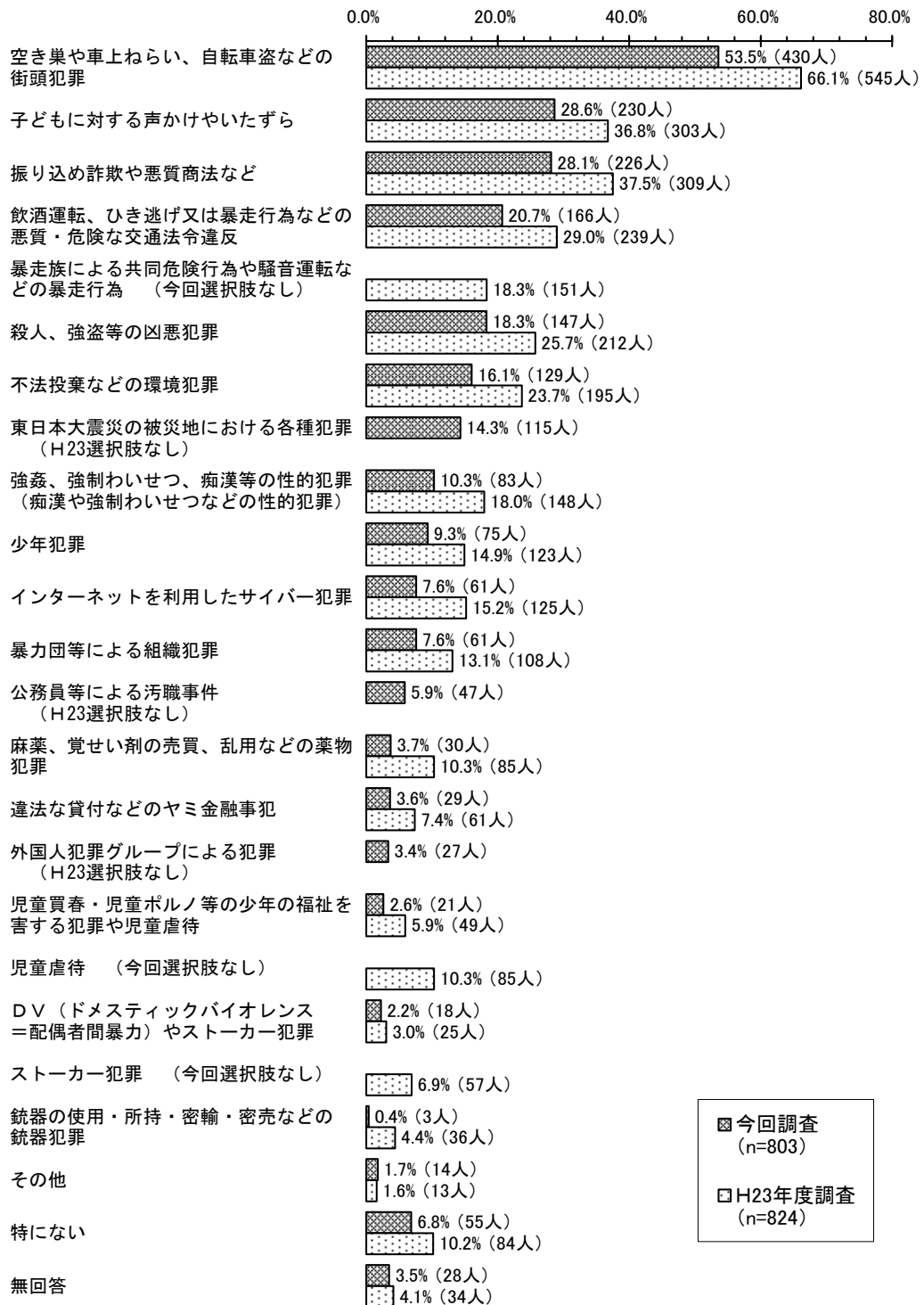
問22 現在お住まいの地域で最も不安を感じ、今後重点的に取り締まってほしい犯罪は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。



今後重点的に取り締まってほしい犯罪は、「空き巣や車上ねらい、自転車盗などの街頭犯罪」(53.5%)が5割強で最も多くなっている。以下、「子どもに対する声かけやいたずら」(28.6%)、「振り込め詐欺や悪質商法など」(28.1%)、「飲酒運転、ひき逃げ又は暴走行為などの悪質・危険な交通法令違反」(20.7%)、「殺人、強盗等の凶悪犯罪」(18.3%)、「不法投棄などの環境犯罪」(16.1%)、「東日本大震災の被災地における各種犯罪」(14.3%)、「強姦、強制わいせつ、痴漢等の性的犯罪」(10.3%)が続いている。

【参考 平成 23 年度調査との比較】



※今回調査（重点的に取り締まってほしい犯罪）と平成 23 年度調査（最も不安に感じる犯罪）では設問及び回答選択数が異なるため、図のみの掲載に留めた。

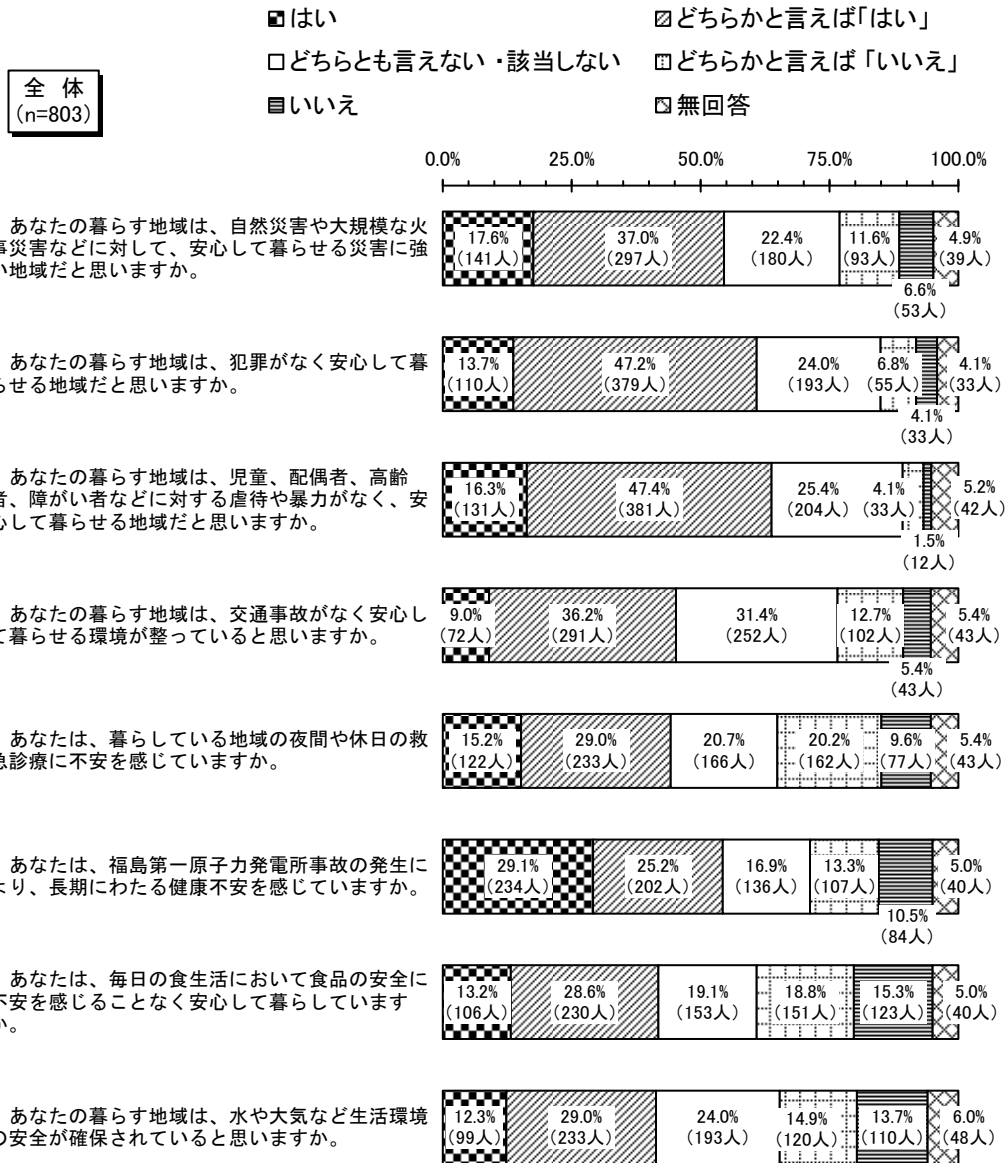


## 7. 安全で安心な県づくりについて

### (1) 安全・安心の現状

問 23 次にあげた（ア）～（ク）の項目について、あなたは現状をどのように感じていますか。

それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。



〈あなたは、福島第一原子力発電所事故の発生により、長期にわたる健康不安を感じていますか。〉に「はい」(29.1%)と回答した人が最も多く、3割弱となっている。次いで、〈あなたの暮らす地域は、自然災害や大規模な火事災害などに対して、安心して暮らせる災害に強い地域だと思いますか。〉(17.6%)が続いている。

「はい」と「どちらかと言えば“はい”」を合わせた『はい』計の割合をみると、〈あなたの暮らす地域は、児童、配偶者、高齢者、障がい者などに対する虐待や暴力がなく、安心して暮らせる地域だと思いますか。〉(63.8%)が最も多く、6割強となっている。以下、〈あなたの暮らす地域は、犯罪がなく安心して暮らせる地域だと思いますか。〉(60.9%)が約6割、〈あなたの暮らす地域は、自然災害や大規模な火事災害などに対して、安心して暮らせる災害に強い地域だと思いますか。〉(54.5%)と〈あなたは、福島第一原子力発電所事故の発生により、長期にわたる健康不安を感じていますか。〉(54.3%)が5割台、〈あなた暮らす地域は、交通事故がなく安心して暮らせる地域だと思いますか。〉(45.2%)、〈あなたは暮らしている地域の夜間や休日の救急診療に不安を感じていますか。〉(44.2%)、〈あなたは、毎日の食生活において食品の安全に不安を感じることなく安心して暮らしていますか。〉(41.8%)、〈あなたの暮らす地域は、水や大気などの生活環境の安全が確保されていると思いますか。〉(41.3%)が4割台となっている。

一方、「いいえ」と「どちらかと言えば“いいえ”」を合わせた『いいえ』計の割合は、〈あなたは、毎日の食生活において食品の安全に不安を感じることなく安心して暮らしていますか。〉(34.1%)が最も多く、3割強となっている。以下、〈あなたは、暮らしている地域の夜間や休日の救急診療に不安を感じていますか。〉(29.8%)、〈あなたの暮らす地域は、水や大気など生活環境の安全が確保されていると思いますか。〉(28.6%)、〈あなたは、福島第一原子力発電所事故の発生により、長期にわたる健康不安を感じていますか。〉(23.8%)が2割台となっている。

## 8. 県総合計画について

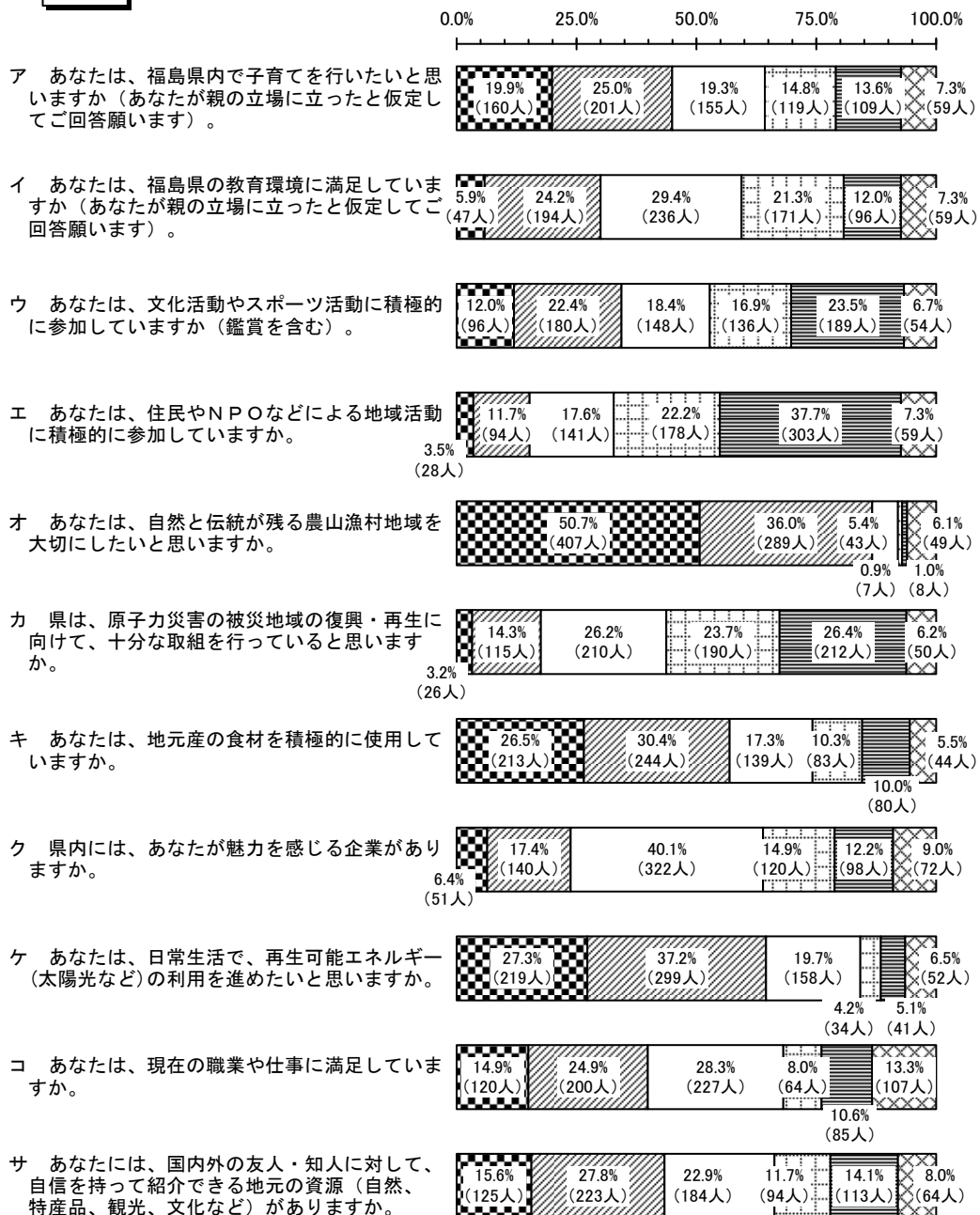
### (1) 福島県の現状

問 24 次にあげた（ア）～（ニ）の項目について、あなたは現状をどのように感じていますか。

それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

- はい  
 どちらとも言えない・該当しない  
 どちらかと言えば「はい」  
 どちらかと言えば「いいえ」  
 いいえ  
 無回答

全体  
(n=803)

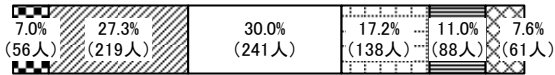


全体  
(n=803)

☑ はい  
☐ どちらとも言えない・該当しない  
☒ いいえ  
☒ どちらかと言えば「はい」  
☒ どちらかと言えば「いいえ」  
☒ 無回答

0.0% 25.0% 50.0% 75.0% 100.0%

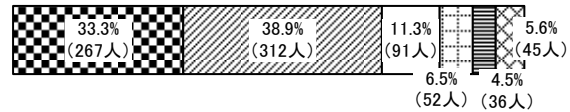
シ あなたの住む地域は、交通ネットワークや情報基盤が十分に整備された地域ですか。



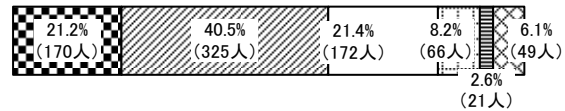
ス あなたは、生活習慣病などの対策のため、健康診断を受診していますか。



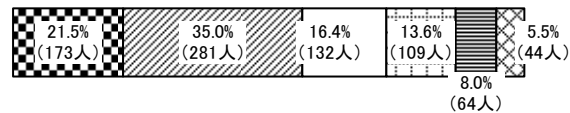
セ あなたの住む地域は、身近なところで、必要な医療を受けることができる地域ですか。



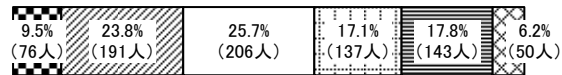
ソ あなたの住む地域は、家庭や身近な施設で、必要な福祉サービスを受けることができる地域ですか。



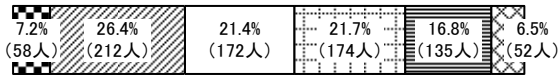
タ あなたは、食品や日用品など、消費生活に関して不安を感じることなく、安心して暮らしていますか。



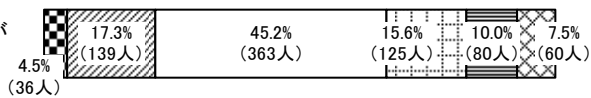
チ あなたの生活空間は、放射線から安心して暮らすことができる空間ですか。



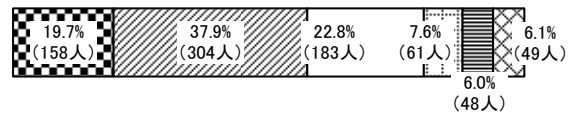
ツ あなたは、大規模災害に備えて、避難場所の確認や食料の備蓄などを行っていますか。



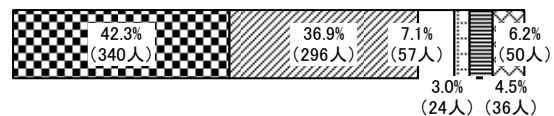
テ あなたの住む地域では、女性の社会参画が進んでいると思いますか。



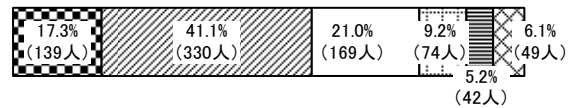
ト あなたは、日頃、人と人の支え合いや絆を実感していますか。



ナ 福島県は、自然が豊かで、美しい景観を有する県であると思いますか。



ニ あなたは、日頃、省エネルギーや地球温暖化防止を意識した取組を行っていますか。



〈あなたは、生活習慣病などの対策のため、健康診断を受診していますか。〉(52.4%)に「はい」と回答した人が最も多く、5割を超えている。次いで、〈あなたは、自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと思いませんか。〉(50.7%)が続いている。

「はい」と「どちらかと言えば“はい”」を合わせた『はい』計の割合をみると、〈あなたは、自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと思いませんか。〉(86.7%)が最も多く、9割弱となっている。以下、〈福島県は、自然が豊かで、美しい景観を有する県であると思いませんか。〉(79.2%)、〈あなたは、生活習慣病などの対策のため、健康診断を受診していますか。〉(74.1%)、〈あなたの住む地域は、身近なところで、必要な医療を受けることができる地域ですか。〉(72.1%)が7割台、〈あなたは、日常生活で、再生可能エネルギー(太陽光など)の利用を進めたいと思いませんか。〉(64.5%)、〈あなたの住む地域は、家庭や身近な施設で、必要な福祉サービスを受けることができる地域ですか。〉(61.6%)が6割台、〈あなたは、日頃、省エネルギーや地球温暖化防止を意識した取組を行っていますか。〉(58.4%)、〈あなたは、日頃、人と人の支え合いや絆を実感していますか。〉(57.5%)、〈あなたは、地元産の食材を積極的に使用していますか。〉(56.9%)、〈あなたは、食品や日用品など、消費生活に関して不安を感じることなく、安心して暮らしていますか。〉(56.5%)が5割台となっている。

一方、「いいえ」と「どちらかと言えば“いいえ”」を合わせた『いいえ』計の割合は、〈あなたは、住民やNPOなどによる地域活動に積極的に参加していますか。〉(59.9%)が約6割で最も高くなっている。以下、〈県は、原子力災害の被災地域の復興・再生に向けて、十分な取組を行っていると思いませんか。〉(50.1%)、〈あなたは、文化活動やスポーツ活動に積極的に参加していますか(鑑賞を含む)。〉(40.5%)、〈あなたは、大規模災害に備えて、避難場所の確認や食料の備蓄などを行っていますか。〉(38.5%)、〈あなたの生活空間は、放射線から安心して暮らすことができる空間ですか。〉(34.9%)、〈あなたは、福島県の教育環境に満足していますか。〉(33.3%)が続いている。



### Ⅲ 調査票様式





# 平成25年度 福島県政世論調査 調 査 票

## I 復興に関する情報発信について

福島県では、復興に関する情報を分かりやすくお伝えするため、復興について県民の皆さんにどのように情報が伝わっているかをお伺いし、今後の情報発信に役立ててまいります。

問1 震災・原発事故や復興について、あなたはどのような情報を知りたいですか。  
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

- 1 復興へ向けた取り組み
- 2 除染の進捗などの状況
- 3 安心して子育てできる環境づくりへの取り組み
- 4 食品や農産物の安全性確保についての取り組み・モニタリング情報
- 5 放射線の健康への影響や健康管理に関する情報
- 6 被災者支援に関する情報
- 7 賠償
- 8 産業（工業、商業、農林水産業など）の復興に関する情報
- 9 特になし
- 10 その他（具体的に )

問2 本県の復興はどの程度進んだと感じていますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。それを選んだ理由についても記入してください。

また、震災前を100として、何パーセントくらい進んだと感じるか、数字で記入してください。

- 1 自分の生活で復興を実感できるくらい進んでいると感じる
- 2 知人や被災者の方の話を聞いて、復興が進んでいると感じる
- 3 一部の地域や一部の分野で進んでいると感じる
- 4 直接の実感はないが、少しは進んでいると感じる
- 5 全く進んでいないと感じる
- 6 その他（具体的に )

上記の理由等

何パーセントくらい進んだと感じますか。 ( ) パーセント

問3 本県の復興の状況に関する情報については主に何で入手していますか。  
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

- |    |                                   |
|----|-----------------------------------|
| 1  | 新聞                                |
| 2  | テレビ・ラジオのニュースなど                    |
| 3  | インターネット（行政以外のページ）                 |
| 4  | インターネット（県のホームページ、フェイスブック、ツイッターなど） |
| 5  | 県の広報（広報誌・テレビ・ラジオなど）               |
| 6  | 市町村の広報（広報誌・テレビ・ラジオ、ホームページなど）      |
| 7  | 国の広報（テレビ・ラジオ・印刷物、ホームページなど）        |
| 8  | 行政以外の印刷物                          |
| 9  | 口コミ                               |
| 10 | その他（具体的に _____ )                  |

問4 あなたは、復興の状況を県の広報で見たことがありますか。

(ア)～(コ)についてそれぞれ1～3の中であてはまるもの 1つに○をつけてください。

			よく見る	見たことがある	見たことがない
(ア)	広報誌	ふくしまから はじめよう。ゆめだより	1	2	3
(イ)	新聞	県政特集（福島民報・福島民友）	1	2	3
(ウ)	テレビ	キビタン G0（福島テレビ：毎週火曜日 21:54～22:00）	1	2	3
(エ)	テレビ	新生ふくしま（福島中央テレビ：毎週土曜日 16:55～17:00）	1	2	3
(オ)	テレビ	ふくしま調査隊（福島テレビ「サタふく」内：毎週土曜日 11:30～12:55）	1	2	3
(カ)	テレビ	ふくしま情報スクエア（福島中央テレビ「ゴジてれchu!」内：毎週火曜日 15:50～16:53）	1	2	3
(キ)	インターネット	県ホームページ	1	2	3
(ク)	インターネット	Facebook（フェイスブック）「ふくしまからはじめよう。」	1	2	3
(ケ)	インターネット	YouTube（ユーチューブ） 県公式チャンネル	1	2	3
(コ)	その他	（具体的に： _____ )	1	2	3

問5 あなたは、県外の方に、福島県のどのようなことを伝えるべきだと思いますか。  
 あてはまるもの3つまで○をつけてください。また、それらを選んだ理由があれば記入してください。

1	震災の被害の状況	
2	復興に向けてがんばる県民の姿、前向きな取り組み	
3	震災後の応援に対する感謝の気持ち	
4	再生可能エネルギーの導入推進などの先進的な取り組み	
5	被災者の生活状況、被災者の声	
6	除染の進捗状況	
7	県内観光地等の放射線のモニタリング情報	
8	観光情報、来県の呼びかけ	
9	県内外で開催される本県関係のイベント情報	
10	農産物や県産品の安全性について	
11	特になし（理由：	）
12	その他（具体的に	）
上記の理由等		

## II 心の健康について

心の健康を保つことは、人生を送る上でとても大切なことです。

しかし、震災や不況で不安やストレスを感じている方も多く、心の健康問題へ大きな影響を及ぼすことが懸念されています。

そこで、県民の皆さんの「心の健康」に関する意識や現状に関するご意見を伺い、今後の各種施策に役立ててまいります。

問6 あなたは心の健康について関心がありますか。  
 あてはまるもの1つに○をつけてください。

1	大変関心がある
2	ある程度関心がある
3	あまり関心がない
4	まったく関心がない
5	わからない

問7 ふだん、気分が落ち込む、あるいは精神的に疲れていると感じることがありますか。  
 あてはまるもの1つに○をつけてください。

1	頻繁に感じている	} (問7-1へ)
2	ときどき感じている	
3	あまり感じない	
4	まったく感じない	
5	わからない	

(問7で、「1 頻繁に感じている」、または「2 ときどき感じている」とお答えの方にお尋ねします。)

問7-1 主にどのようなことが心の負担になりますか。

あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。

- |    |                                |   |
|----|--------------------------------|---|
| 1  | 自分の健康のこと                       |   |
| 2  | 家族の健康のこと (病気・介護)               |   |
| 3  | 経済的なこと (家計やローンなど)              |   |
| 4  | 仕事のこと (仕事がうまくできるか、自分にあった仕事かなど) |   |
| 5  | 仕事がないこと                        |   |
| 6  | 学校のこと (学業について、進路についてなど)        |   |
| 7  | 将来の生活のこと                       |   |
| 8  | 親との関係 (接し方、かかわり方など)            |   |
| 9  | 子どもとの関係 (接し方、かかわり方など)          |   |
| 10 | 配偶者との関係 (接し方、かかわり方など)          |   |
| 11 | その他の家族、親戚との関係 (つきあい方、かかわり方など)  |   |
| 12 | 友達つきあいのこと                      |   |
| 13 | 近所つきあいなど                       |   |
| 14 | 職場や学校での対人関係                    |   |
| 15 | その他 (具体的に :                    | ) |
| 16 | わからない                          |   |

問8 心の健康について心配なことがある時、あなたは誰に相談しますか。

あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。

- |    |                    |   |
|----|--------------------|---|
| 1  | 家族や親戚              |   |
| 2  | 友人                 |   |
| 3  | 職場の同僚              |   |
| 4  | 職場の上司              |   |
| 5  | 学校の先生やスクールカウンセラーなど |   |
| 6  | 地域の有識者             |   |
| 7  | 相談機関等の専門家          |   |
| 8  | その他 (具体的に :        | ) |
| 9  | 誰にも相談しない           |   |
| 10 | わからない              |   |

問9 心の健康について相談するため、どのような相談機関を利用したことがありますか。

あてはまるものに、いくつでも○をつけてください。

- |   |                              |   |
|---|------------------------------|---|
| 1 | 行政機関の相談窓口 (精神保健福祉センターや保健所など) |   |
| 2 | 精神科や心療内科などの医療機関              |   |
| 3 | カウンセリングなどを行う専門的民間機関          |   |
| 4 | その他 (具体的に :                  | ) |
| 5 | 相談したいが利用したことがない              |   |
| 6 | 相談する必要がないので利用したことがない         |   |

### Ⅲ 救急医療について

福島県では、第六次医療計画や地域医療再生計画を策定し、地域の救急医療の充実に取り組んでいるところです。救急医療に対する県民の皆さんの意識についてお伺いし、今後の施策に役立ててまいります。

問 10 あなたが住んでいる地域の休日・夜間における医療体制は、どの程度整っていると思いますか。

あてはまるもの 1つに○をつけてください。

- |                      |
|----------------------|
| 1 安心して生活できるくらいに整っている |
| 2 だいたい整っている          |
| 3 あまり整っていない          |
| 4 まったく整っていない         |
| 5 わからない              |

(問 10 で「3 あまり整っていない」または「4 まったく整っていない」とお答えの方にお尋ねします。)

問 10-1 どのような点が整っていないと思いますか。

あてはまるもの いくつでも○をつけてください。

- |                            |
|----------------------------|
| 1 休日・夜間に診てくれる身近な診療所（医院）がない |
| 2 休日・夜間に診てくれる病院がない         |
| 3 休日・夜間だと専門医に診てもらえない       |
| 4 休日・夜間だと病院のスタッフが少ない       |
| 5 どこに行けばよいかわからない           |
| 6 その他（具体的に )               |

(全員にお尋ねします。)

問 11 あなたが住んでいる地域の救急医療について、何を期待しますか。

あてはまるもの 3つまで○をつけてください。

- |  |
|--|
| 1 救急患者のいわゆるたらい回しをなくしてほしい                               |
| 2 急病のときに、搬送時間を短縮し、早く医師に診てほしい                           |
| 3 休日や夜間などの急病のときに受診可能な医療機関の情報がほしい                       |
| 4 休日や夜間などの救急診療体制をもっと充実してほしい                            |
| 5 医師の乗っている救急車（ドクターカー）や車内で高度な処置が行える救急車（高規格救急車）の整備をしてほしい |
| 6 その他（具体的に )   |
| 7 特にない   |

## IV 農林水産業について

震災後の本県農林水産物や農山漁村に対する県民の皆さんの意識をお伺いし、今後の農林水産業の振興のための効果的な施策に役立ててまいります。

問 12 震災後、あなたが農林水産物の購入や食生活において、以下の行動のうち実践しているまたは実践したいと考えていることはありますか。

あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- |                              |
|------------------------------|
| 1 国産の食材を積極的に購入する             |
| 2 県産の食材を積極的に購入する             |
| 3 放射性物質の検査結果がわかるもののみ購入する     |
| 4 ごはんを中心とした日本型食生活の実践         |
| 5 米を原料とするパンや麺など米粉製品を積極的に利用する |
| 6 食べ残しを減らすなど食品の廃棄を減らす        |
| 7 その他（具体的に： _____ )          |

問 13 あなたが本県の農山漁村の役割として期待することは何ですか。

あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- |                            |
|----------------------------|
| 1 農山漁村の中で、地域の人々が働き、生活する場   |
| 2 食料を生産する場                 |
| 3 多種多様な生物が生息できる環境としての役割    |
| 4 農林漁業の作業体験等を通じた教育の場       |
| 5 水資源のかん養や土砂崩れ・洪水などを防止する役割 |
| 6 伝統文化を保存・承継する役割           |
| 7 農山漁村の景観による癒し、レクリエーションの場  |
| 8 滞在型体験農園などの活用による二地域居住     |
| 9 その他（具体的に： _____ )        |

## V 生物多様性について

福島県では、「自然と人が育む、生物多様性豊かな“ほっとする、ふくしま”」の実現を目指す「ふくしま生物多様性推進計画」の見直しを進めています。生物多様性に関する県民の皆さんの意識についてお伺いし、今後の施策に役立ててまいります。

（参考）生物多様性とは

いろいろな生物が存在している様子の中で、生態系の多様性、種における多様性、遺伝子の多様性など、各々の段階でさまざまな生命が豊かに存在することをいいます。

問 14 あなたは、「生物多様性」という言葉について知っていますか。

あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

- |                        |
|------------------------|
| 1 言葉も意味も知っている          |
| 2 言葉を聞いたことがあるが、意味は知らない |
| 3 言葉も意味も知らない           |

問 15 震災前と比較して、あなたの周りの身近な自然環境はどのように変化しましたか。それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

	あてはまる	どちらかと言え ばあ	どちらとも言 えな い・わ から ない	どちらかと言 えばあ てはま らない	あてはま らない
ア 田んぼや畑、ため池などの身近な自然が減少した。	1	2	3	4	5
イ カエルや昆虫、魚、鳥などの身近な生きものが減少した。	1	2	3	4	5
ウ 雑木林などの里山が減少した。	1	2	3	4	5
エ 海の生きものが減少した。	1	2	3	4	5
オ 数が少ない、あるいは絶滅の恐れのある生きものがさらに減少した。	1	2	3	4	5
カ 農作物や住宅に被害を与える動物が増えた。	1	2	3	4	5
キ 外来生物など、これまで見たことがなかった動物や植物が増えた。	1	2	3	4	5

問 16 生物多様性を保全していくことは大切ですが、一方で東日本大震災からの復旧・復興に取り組む必要もあります。あなたはこのことについてどのようにお考えでしょうか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 復旧・復興事業に関わらず、人間の生活にある程度制約があっても、生物多様性の保全を最も優先する
2 まずは復旧・復興事業を優先するが、一定の目途が立った後は、人間の生活にある程度制約があっても、生物多様性の保全を優先する
3 復旧・復興事業に関わらず、人間の生活が制約されない程度に、生物多様性の保全を進める
4 人間の生活の豊かさや便利さを確保するためには、生物多様性の保全が失われてもやむを得ない
5 その他 ( )
6 わからない

問17 あなたは、生物多様性に配慮したライフスタイルとして、これからどのようなことを行いたいと思いますか。

それぞれ1～4の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

	積極的に取り組みたい	機会があれば取り組みたい	どちらとも言えない・わからない	取り組みたいとは思わない
ア 旬のもの、地のものを選んで購入する。	1	2	3	4
イ 身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう。	1	2	3	4
ウ NGOやNPOによる自然保護活動や美化活動に参加する。	1	2	3	4
エ 行政機関による自然保護活動や美化活動に参加する。	1	2	3	4
オ 生きものを最後まで責任を持って育てる。	1	2	3	4
カ 環境に配慮した商品を優先的に購入する。	1	2	3	4
キ 自然や生きものについて、家族や友人と話し合う。	1	2	3	4
ク 節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組む。	1	2	3	4
ケ 家庭菜園等を始める。	1	2	3	4
コ 地域の気候・風土に培われた伝統的な文化・芸能活動に取り組む。	1	2	3	4

## VI 地域社会の安全・安心（治安）について

震災後、治安情勢の変化により、県民の皆さんが抱えている安全・安心に関する意識や要望などを調査し、犯罪抑止対策や検挙活動等の効率的な推進に役立ててまいります。

問18 東日本大震災から2年余りが経過しましたが、現在あなたが住んでいる地域(仮設住宅・借り上げ住宅も含む)の治安は良いと思いますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。

1	良い	→	(問18-1へ)
2	悪い	→	(問18-2へ)
3	変わらない		
4	わからない		



(問18で、「1 良い」とお答えの方にお尋ねします。)

問18-1 良いと思う理由は何ですか。

あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- |                              |
|------------------------------|
| 1 犯罪の被害に遭った人が身近にいない          |
| 2 町内会や人の巡回や防犯ボランティアの姿を良く見かける |
| 3 パトカーや警察官の姿を良く見かける          |
| 4 隣近所とのコミュニケーションが図られている      |
| 5 犯罪発生ニュース等を聞かなくなった          |
| 6 地域住民の防犯意識が高まった             |
| 7 その他 ( )                    |

(問18で、「2 悪い」とお答えの方にお尋ねします。)

問18-2 悪いと思う理由は何ですか。

あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- |                             |
|-----------------------------|
| 1 犯罪の被害に遭った人が身近にいる          |
| 2 町内会や人の巡回や防犯ボランティアの姿を見かけない |
| 3 パトカーや警察官の姿を見かけない          |
| 4 隣近所とのコミュニケーションが図られていない    |
| 5 犯罪発生ニュース等をよく聞くようになった      |
| 6 地域住民の防犯意識が希薄になった          |
| 7 その他 ( )                   |

(全員にお尋ねします。)

問19 犯罪の発生状況や犯罪を未然に防止する方法等の情報について、どのような形で提供されるのがよいと思いますか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

- |                     |               |
|---------------------|---------------|
| 1 各種防犯研修会の開催        | 6 ラジオ放送による広報  |
| 2 警察官の訪問による具体的な助言活動 | 7 新聞の定期的な掲載   |
| 3 防犯広報紙の配布          | 8 携帯電話へのメール配信 |
| 4 県警察ホームページへの掲載     | 9 その他(具体的に )  |
| 5 テレビ放映による広報        | 10 わからない      |

問20 犯罪に関するどのような情報が知りたいですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 1 自分の住んでいる地域の犯罪情報 | 7 多発している犯罪の手口や傾向   |
| 2 市町村単位の犯罪情報      | 8 振り込め詐欺に関する情報     |
| 3 福島県全体の犯罪情報      | 9 来日外国人の犯罪情報       |
| 4 全国の犯罪傾向         | 10 インターネットに関する犯罪情報 |
| 5 学校や幼稚園周辺の犯罪情報   | 11 防犯設備・防犯グッズ等の情報  |
| 6 少年非行の現状         | 12 その他 ( )         |

問21 震災から1日も早く復興し、安全・安心な地域社会をつくるため、警察にどのような活動を強化してほしいと考えますか。  
あてはまるもの**3つまで○**をつけてください。

- 1 犯罪の検挙活動
- 2 犯罪の抑止活動
- 3 パトロール等街頭活動（被災地等における活動を含む。）
- 4 巡回連絡（家庭等の訪問活動）
- 5 緊急事案に対する迅速な対応
- 6 交通取締り等の交通事故の抑止活動
- 7 犯罪・事故被害者に対する支援
- 8 事件・事故に関する情報発信
- 9 警察安全相談の充実
- 10 意見・要望への的確な対応
- 11 防犯・交通ボランティア等の結成、活動への支援
- 12 津波被害等で行方不明となった方々の捜索活動
- 13 仮設住宅、借上住宅の設置等で生じた交通危険箇所等改善対策
- 14 その他（ ）
- 15 特にない

問22 現在お住まいの地域で最も不安を感じ、今後重点的に取り締まってほしい犯罪は何ですか。あてはまるもの**3つまで○**をつけてください。

- 1 殺人、強盗等の凶悪犯罪
- 2 空き巣や車上ねらい、自転車盗などの街頭犯罪
- 3 子どもに対する声かけやいたずら
- 4 強姦、強制わいせつ、痴漢等の性的犯罪
- 5 振り込め詐欺や悪質商法など
- 6 少年犯罪
- 7 児童買春・児童ポルノ等の少年の福祉を害する犯罪や児童虐待
- 8 DV（ドメスティックバイオレンス＝配偶者間暴力）やストーカー犯罪
- 9 違法な貸付などのヤミ金融事犯
- 10 インターネットを利用したサイバー犯罪
- 11 飲酒運転、ひき逃げ又は暴走行為などの悪質・危険な交通法令違反
- 12 暴力団等による組織犯罪
- 13 外国人犯罪グループによる犯罪
- 14 公務員等による汚職事件
- 15 麻薬、覚せい剤の売買、乱用などの薬物犯罪
- 16 不法投棄などの環境犯罪
- 17 銃器の使用・所持・密輸・密売などの銃器犯罪
- 18 東日本大震災の被災地における各種犯罪
- 19 その他（ ）
- 20 特にない

## VII 安全で安心な県づくりについて

福島県では、「福島県安全で安心な県づくりの推進に関する条例」に基づき、真に安心できる暮らしの実現に向けて各種施策を行うこととしています。県民の皆さんは「安心」をどのように実感しているのかについてお伺いし、今後の安全・安心に関わる各種施策に役立ててまいります。

問23 次にあげた（ア）～（ク）の項目について、あなたは現状をどのように感じていますか。それぞれ1～5の中であてはまるもの**1つに○**をつけてください。

	はい	どちらかと言えば「はい」	どちらとも言えない・該当しない	どちらかと言えば「いいえ」	いいえ
ア あなたの暮らす地域は、自然災害や大規模な火事災害などに対して、安心して暮らせる災害に強い地域だと思いますか。	1	2	3	4	5
イ あなたの暮らす地域は、犯罪がなく安心して暮らせる地域だと思いますか。	1	2	3	4	5
ウ あなたの暮らす地域は、児童、配偶者、高齢者、障がい者などに対する虐待や暴力がなく、安心して暮らせる地域だと思いますか。	1	2	3	4	5
エ あなたの暮らす地域は、交通事故がなく安心して暮らせる環境が整っていると思いますか。	1	2	3	4	5
オ あなたは、暮らしている地域の夜間や休日の救急診療に不安を感じていますか。	1	2	3	4	5
カ あなたは、福島第一原子力発電所事故の発生により、長期にわたる健康不安を感じていますか。	1	2	3	4	5
キ あなたは、毎日の食生活において食品の安全に不安を感じることなく安心して暮らしていますか。	1	2	3	4	5
ク あなたの暮らす地域は、水や大気など生活環境の安全が確保されていると思いますか。	1	2	3	4	5

※ 平成23年3月11日に発生した東日本大震災及びそれに伴う福島第一原子力発電所事故に伴い避難されている方につきましては、「あなたの暮らす地域」について、以下により回答してください。  
 ・福島県内に避難されている方 → 現在お住まいの地域の状況を回答してください。  
 ・福島県外に避難されている方 → 避難する前に住んでいた地域の状況を回答してください。

## VIII 県総合計画について

福島県では、東日本大震災からの復興と新生ふくしまの創造に向けて、県の最上位計画である総合計画の見直しを行い、「ふくしま新生プラン」を策定しました。

計画の取組に関連した以下の項目について、県民の皆さんの考えをお聞きし、総合計画の評価・検討に活用してまいります。

問24 次にあげた（ア）～（ス）の項目について、あなたは現状をどのように感じていますか。それぞれ1～5の中であてはまるもの**1つに○**をつけてください。

	はい	どちらかと言えば「はい」	どちらとも言えない・該当しない	どちらかと言えば「いいえ」	いいえ
ア あなたは、福島県内で子育てを行いたいと思えますか（あなたが親の立場に立ったと仮定してご回答願います）。	1	2	3	4	5
イ あなたは、福島県の教育環境に満足していますか（あなたが親の立場に立ったと仮定してご回答願います）。	1	2	3	4	5
ウ あなたは、文化活動やスポーツ活動に積極的に参加していますか（鑑賞を含む）。	1	2	3	4	5
エ あなたは、住民やNPOなどによる地域活動に積極的に参加していますか。	1	2	3	4	5
オ あなたは、自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと思えますか。	1	2	3	4	5
カ 県は、原子力災害の被災地域の復興・再生に向けて、十分な取組を行っていると思えますか。	1	2	3	4	5
キ あなたは、地元産の食材を積極的に使用していますか。	1	2	3	4	5
ク 県内には、あなたが魅力を感じる企業がありますか。	1	2	3	4	5
ケ あなたは、日常生活で、再生可能エネルギー（太陽光など）の利用を進めたいと思えますか。	1	2	3	4	5
コ あなたは、現在の職業や仕事に満足していますか。	1	2	3	4	5
サ あなたには、国内外の友人・知人に対して、自信を持って紹介できる地元の資源（自然、特産品、観光、文化など）がありますか。	1	2	3	4	5
シ あなたの住む地域は、交通ネットワークや情報基盤が十分に整備された地域ですか。	1	2	3	4	5
ス あなたは、生活習慣病などの対策のため、健康診断を受診していますか。	1	2	3	4	5

	はい	どちらかと言えば「はい」	どちらとも言えない・該当しない	どちらかと言えば「いいえ」	いいえ
セ あなたの住む地域は、身近なところで、必要な医療を受けることができる地域ですか。	1	2	3	4	5
ソ あなたの住む地域は、家庭や身近な施設で、必要な福祉サービスを受けることができる地域ですか。	1	2	3	4	5
タ あなたは、食品や日用品など、消費生活に関して不安を感じることなく、安心して暮らしていますか。	1	2	3	4	5
チ あなたの生活空間は、放射線から安心して暮らすことができる空間ですか。	1	2	3	4	5
ツ あなたは、大規模災害に備えて、避難場所の確認や食料の備蓄などを行っていますか。	1	2	3	4	5
テ あなたの住む地域では、女性の社会参画が進んでいると思いますか。	1	2	3	4	5
ト あなたは、日頃、人と人の支え合いや絆を実感していますか。	1	2	3	4	5
ナ 福島県は、自然が豊かで、美しい景観を有する県であると思いますか。	1	2	3	4	5
ニ あなたは、日頃、省エネルギーや地球温暖化防止を意識した取組を行っていますか。	1	2	3	4	5

◆ このページの質問は、アンケートにお答えいただいた内容を統計的に分析するために  
お尋ねするものです。最後までご協力をお願いします。

あなたご自身についてお答えください。

F 1 あなたの性別をお知らせください。

1 男	2 女
-----	-----

F 2 あなたの満年齢をお知らせください。（平成25年8月1日現在）

1 15～19歳	5 35～39歳	9 55～59歳
2 20～24歳	6 40～44歳	10 60～64歳
3 25～29歳	7 45～49歳	11 65～69歳
4 30～34歳	8 50～54歳	12 70歳以上

F 3 あなたの現在のご職業は何ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。  
(複数の職業をお持ちの方は、主とするもの1つに○をつけてください)

- |                                       |
|---------------------------------------|
| 1 農・林・漁業（農業・林業・漁業の自営者、家族従業者）          |
| 2 商・工・サービス業（小売店・飲食店・理髪店などの自営者、家族従業者）  |
| 3 自由業（開業医・弁護士・芸術家・茶華道の師匠などの自営者、家族従業者） |
| 4 管理職（民間会社・官公庁の課長級以上）                 |
| 5 事務職・専門技術職（事務職員・教員・技術者など）            |
| 6 技能職・労務職（技能工・販売店員・外交員など）             |
| 7 パートタイマー・アルバイト・フリーター・嘱託など            |
| 8 専業主婦・主夫                             |
| 9 学生・生徒                               |
| 10 その他（具体的に： _____ )                  |
| 11 無職                                 |

F 4 あなたがお住まいの市町村名をご記入ください。

（一昨年の震災の影響により現在避難している方は、避難する前の市町村名）

_____
（市・町・村）

お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒をお使いのうえ、  
9月4日（水）までに、切手を貼らずに郵便ポストに投函して  
ください。

#### IV 過去に実施した県政世論調査項目一覧





平成24年度（9項目33問） 標本数1,300 回収率60.7%

- (1) 環境について
- (2) 水に関する意識について
- (3) 子育て支援策について
- (4) 青少年の健全育成について
- (5) ユニバーサルデザインについて
- (6) ジェネリック医薬品（後発医薬品）について
- (7) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (8) 安全で安心な県づくりについて
- (9) 県総合計画について

平成23年度（7項目24問） 標本数1,300 回収率63.4%

- (1) 震災時及び現在における情報収集について
- (2) 男女共同参画の視点からの災害対応について
- (3) 心の健康について
- (4) 震災後の商業環境について
- (5) 芸術文化・スポーツ活動について
- (6) 震災後の県内の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて

平成22年度（8項目30問） 標本数1,300 回収率60.8%

- (1) 福島県農林水産物の消費拡大について
- (2) 地域社会の安全・安心について
- (3) 生活習慣病予防対策について
- (4) 水について
- (5) 生物多様性について
- (6) 廃棄物対策について
- (7) 福島県総合計画について
- (8) 安全で安心な県づくりについて

平成21年度（7項目30問） 標本数1,300 回収率65.1%

- (1) 福島県の農業・農村の振興について
- (2) 地域社会の安全・安心について
- (3) 食育について
- (4) 環境について
- (5) 青少年の健全育成について
- (6) 土地利用について
- (7) 福島県の新しい総合計画について

平成20年度（5項目28問） 標本数1,300 回収率64.2%

- (1) 安心・安全な県産農産物の生産拡大について
- (2) 地域社会の安全、安心について
- (3) 保健福祉関連事業について
- (4) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について
- (5) ユニバーサルデザインについて

平成19年度（5項目23問） 標本数1,300 回収率61.8%

- (1) 「ふくしま食と農の絆づくり運動」について
- (2) 警察活動について
- (3) 「がん」に関する意識について
- (4) 県庁の組織名及び職名について
- (5) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成18年度（6項目21問） 標本数1,300 回収率58.5%

- (1) 犯罪に関する意識について
- (2) 化学物質について
- (3) 有機農産物に対する認知度と消費動向について
- (4) 食育について
- (5) “うつくしま、ふくしま。” 県民運動について
- (6) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成17年度（6項目24問） 標本数1,300 回収率59.3%

- (1) 森林と県民生活について
- (2) 水について
- (3) 電子社会の推進と現状について
- (4) 運動・スポーツに関する実態について
- (5) ユニバーサルデザインについて
- (6) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成16年度（5項目27問） 標本数1,300 回収率61.8%

- (1) 安全に安心して暮らせる地域社会について
- (2) 地域温暖化防止のためのエコライフについて
- (3) 心の健康について
- (4) 文化に関する意識について
- (5) “うつくしま、ふくしま。” 県民運動について

平成15年度（5項目34問） 標本数1,300 回収率62.2%

- (1) お米の消費実態と福島米への要望について
- (2) 交通安全教育について
- (3) 環境保全への取り組みについて
- (4) エネルギー政策について
- (5) 県政への要望について

平成14年度（4項目30問） 標本数1,000 回収率60.5%

- (1) 地産地消について
- (2) IT革命の現状と課題について
- (3) ボランティア活動について
- (4) 食品の安全確保について

平成13年度（6項目33問） 標本数1,000 回収率58.0%

- (1) ユニバーサルデザインについて
- (2) “うつくしま、ふくしま。”県民運動について
- (3) 環境保全について
- (4) 県民生活と森林づくり運動について
- (5) 新エネルギーについて
- (6) 人権問題について

平成12年度（4項目31問） 標本数1,000 回収率62.2%

- (1) 行政情報化について
- (2) 魅力ある観光地づくりについて
- (3) うつくしま未来博について
- (4) 運動・スポーツについて

平成11年度（6項目34問） 標本数1,000 回収率64.4%

- (1) 福島県の教育について
- (2) 高齢社会について
- (3) 住民参加について
- (4) 行財政改革について
- (5) 土地利用について
- (6) 県への要望について

平成10年度（6項目33問） 標本数1,000 回収率66.9%

- (1) 子育てについて
- (2) 生涯学習について
- (3) 安全な生活について
- (4) 魅力ある観光地づくりについて
- (5) 地方分権について
- (6) 県への要望について

平成 25 年度

# 県政世論調査

結果報告書

〈概要版〉

平成 25 年 11 月発行

福島県 知事直轄 県民広聴室

〒 960-8670 福島市杉妻町 2 番 16 号

電話 (024) 521-7013